

伊勢参宮名所圖會
五上

ル 4
3526
5



門 儿 4
 3526
 卷 5

伊勢參宮名所圖會卷之五

目録

館 後所 一殿直會殿
 御興宿 第四御門 八重梯
 内宮正殿 相殿二座 瑞垣御門 瑞珠盟約 内宮訓後
 百枝松 西宮殿 石窟幽居 西鳥居
 奉宮古殿 興玉拜所 石壇
 糸宜宿館 巖社遙拜所 忌火屋殿 玉串所 脅王候殿
 中宮内 一鳥居 二鳥居 荒祭宮遙拜所 外宮遙拜所 石壺
 手水場 廳 舍 外幣殿 冠衣鳥居 第三鳥居
 宿衛殿 天津神社 神路山 八十末社 國津神社 御稻御倉

昭和十六年一月十一日
 尼野貴英氏 贈

一之元社 裏内門 小鳥居
 御遷宮 御池
 河原社 由貴殿
 子良殿 又十鈴川橋
 末社 八百會遙拜所
 川原後所 落合川原
 高倉殿 山神社
 御贄小屋 一の瀬
 長尾 組板石 鉾石
 瀧祭窟 家立茶屋
 宮川 鷄鷄石
 伊雜宮 大蔵宮 後田彦社
 荒祭宮 同宮前東西遙拜所
 川島神社遙拜所 樓宮
 酒殿 朝庭遙拜所
 僧尼拜所 風宮
 瀧祭宮 瀧宮並宮
 河合社 御殿
 石井神社 荒本國氏社
 三方石 松坂
 合坂 松坂
 龍石 後田彦森
 惠利原 鼎石
 楠部嶺 一守田院 笹原院
 弘法茶屋 天狗岩

五月十一

朝熊嶽 岩舟 弁天
 熊野三社 子安地蔵 阿弥陀尊 二王門 連珠橋 連珠池 雨宮堂 極樂橋
 明聖水 手向地蔵 龍池 寺院 芭蕉塚 福壽社 舍利塔
 開山堂 東岳和尚像 朝熊村 永松庵 後田院之次実季墓 後原右馬之次墓
 七社社
 小朝熊社 新熊森
 昼川村 廉海社
 山回原 西行法師 隼人古墳 三津浦 三津村
 淡萩 鷺島 龜ヶ表 姫小松 出口村氏社
 五石 堅回社遙拜所
 志支松 河寄 二軒茶屋
 常村子 通村 箕曲氏社 天神社
 御食社 三枚橋村 大津社
 大湊 志支松社 八幡宮 今一色社
 高城濱
 破石
 五峯山密巖寺
 伊勢三郎宅地
 音岳山
 尾瀬
 神社村
 小林社 御役所

赤城溪 清瀨 御塩殿 立石橋

二見浦 興玉石 江村 湖青山大江寺

江神社 府後明神 松下 藤民社 府絵松

嶼島巡覽 許母利神社 赤石山 赤石山 後修 勿立石 潜宮

小浜 表下有瀧 由曾津 宿浦 赤津 依荒磯 遊柄 磯浦 相賀

阿曾津浦 日和山 依田溪 多羽浦 波笠地溪 酢我崎 伊良仰崎

附録目録 神衣系 月次祭 神嘗祭 凡日祈

祈年系 山口系 幣帛使 筑紫系神抵

神寶共一種 御装束 御舩代 荒磯和魂 兼振系

御遷宮 系主家 神宮家 叙爵家 奏奉始

異姓家 御巫御内人 御首佐内人 奏奉始

御師 守武神主御譜 阿漕浦再考

伊勢國号 鯉 田禄 新名所歎合

三角拍 不うかこめ 御頭神奉 退遣

石戦 兼はと入 真寄三方 主従 死葬倭股

攝人 相殿別宮 兼式内式外社宮の解 疾燈

園崎宮 御政印 長鯉 佛法

館 橋の下の所をう鉦の儀ハ外宮より一 徐置宿鉦 一の居九 十員の徐

宣秋戒糸籠の館舎也 神庫 宿鉦の南の 外宮より一

一鳥居 内宮の入口は外宮の鳥居より十三丁寄之延延七里と云い一六丁里の例を以て記せり

手水場 一の鳥居より入て右の 凡の宮の東の流とて鏡石の方の流とての落合之 け辺て大を

上二の今の所を其の外をとり又此の 測を川合測ともいふ名あり ○後石 一の居より右の 昔ハ勅使此を以て修

櫻の一と云今ハちり 糸宮の附け不瓜のりふ修櫻をまるとる習ひあり

○巖社遠拜石 後石の本宮に石の神社とて字流石石母田あり不あり

高水上命 大水上云 此神社に宮城の神あり俗より一の宮と云ふ

二名の居 一の居の勅使系向の附此不はく大庭沖塩湯を献と外宮より一

廳舎 二の居にハ外宮より一

一殿 大なる此殿ハ勅使の直會殿也二殿ハ志舎院の身一殿と云ふあり

外宮あり日星を又大殿九丈殿と云則九丈殿の二宇相並ぶ古書且此殿

五間とあれども今の三間と柱十かあり十柱殿と俗稱せりまハ外宮より一

忌火屋殿 大非宮の御饗を調へ年中十三度此不はく御より二両宮の御饗

殿ハ外宮より外宮の御饗は御より内宮の御饗は 十三度の御饗といふ月日

六月十六日十七日九月九日十月十六日十七日十月十七日十月十八日 七日十八日三月三日又

荒祭宮の遙拜不 忌火屋殿の東の石壇あり 荒祭不冬時ハ定はく好と

外幣殿 子細外宮 御輿宿 大なる右 齋宮輿をとも先終ふ舎之又玉串乃

外宮典宮官拜所 南の御門の板の下の方あり 昔ハ正殿の南あり遠の又十

鈴川の二股は流し 其中の測み石を礎を作りて黒木の橋を架く

三節の祭ことハ御饗供進せり流みのく先且流し後今のあり

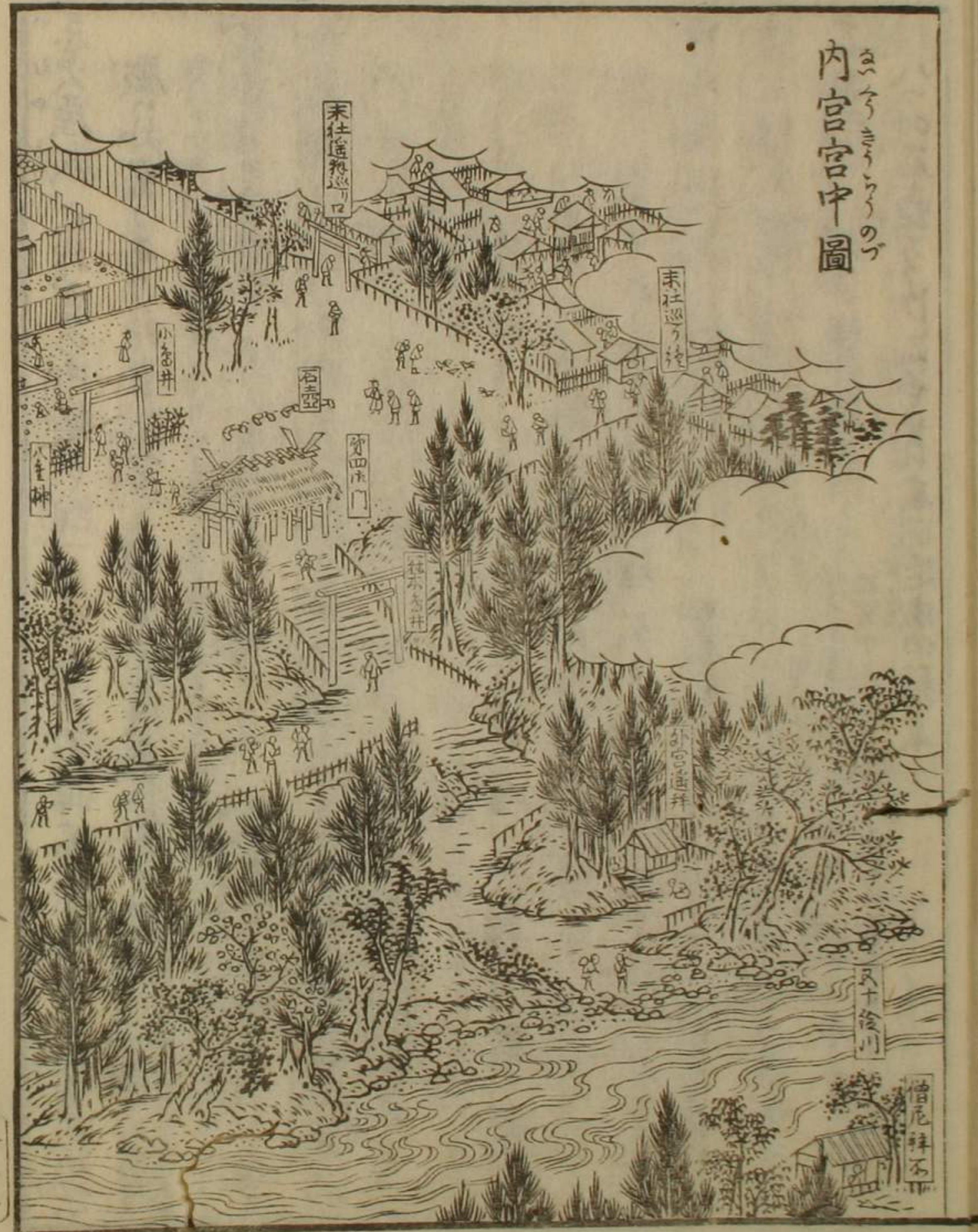
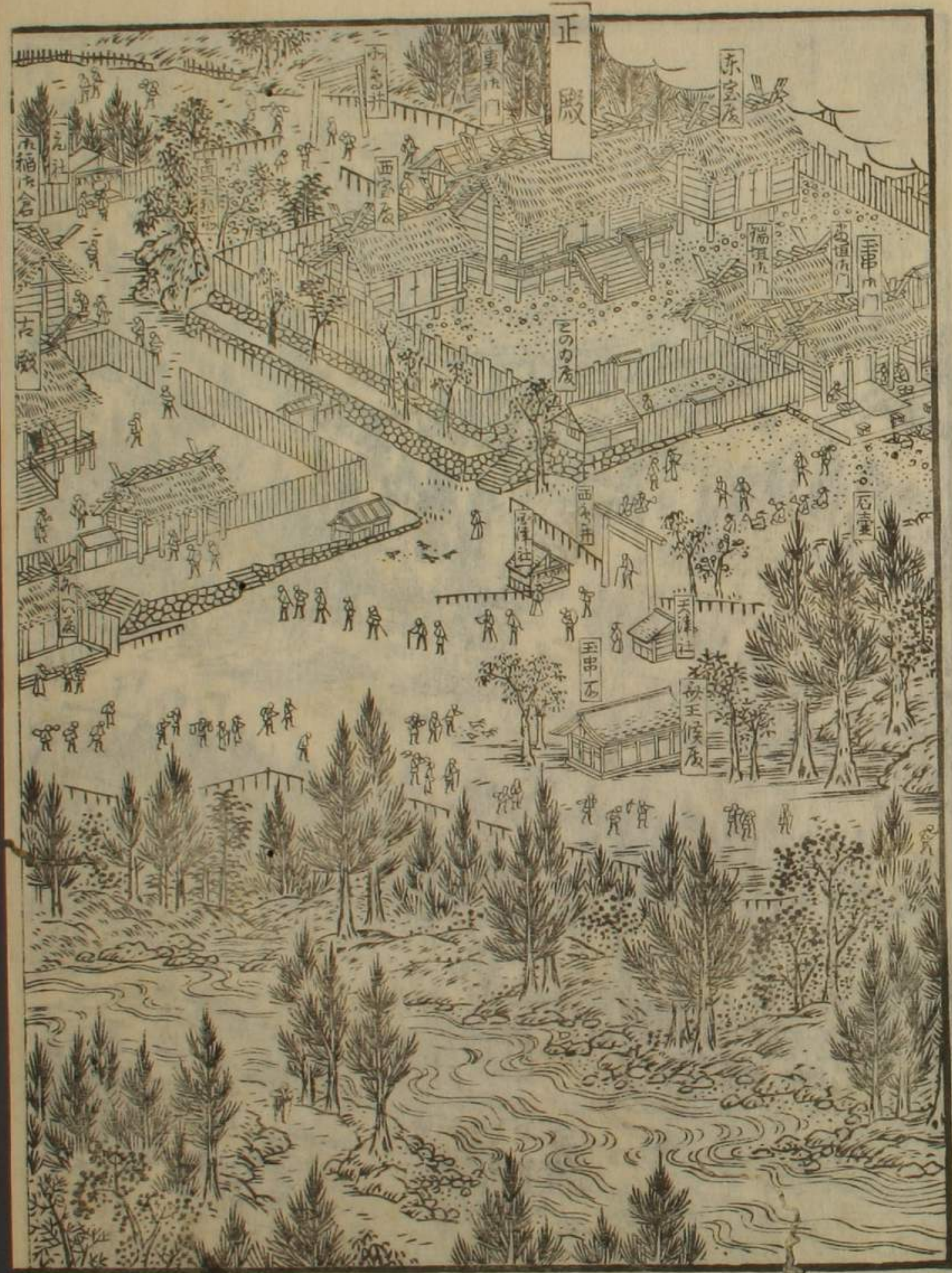
移しなかりあり此不はく御饗の拜不といふ黒木の橋より作る名あり

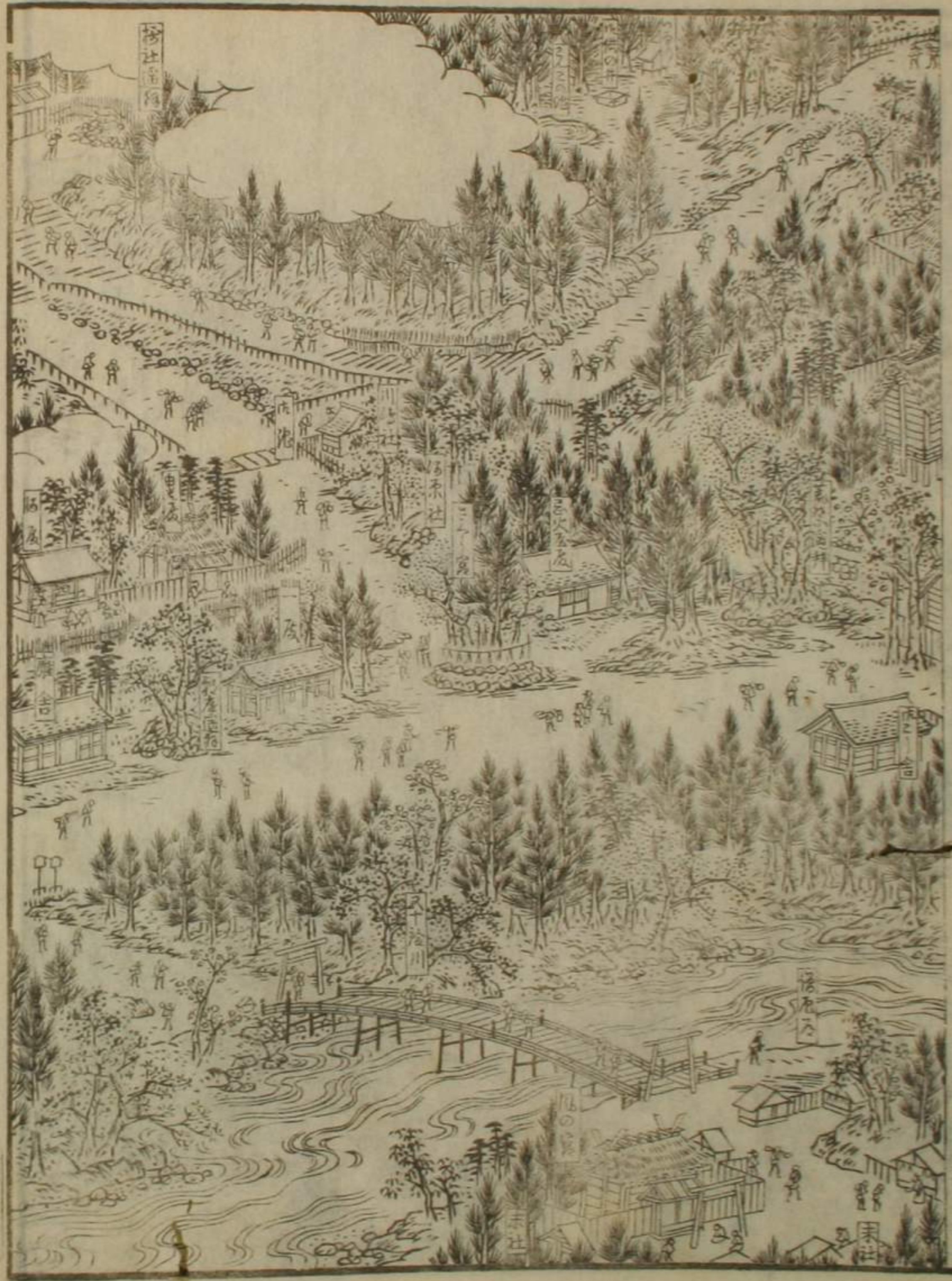
冠本鳥居 御門あり南荒御門あり 齊王御門 齊三の鳥居の御門あり外宮御門あり

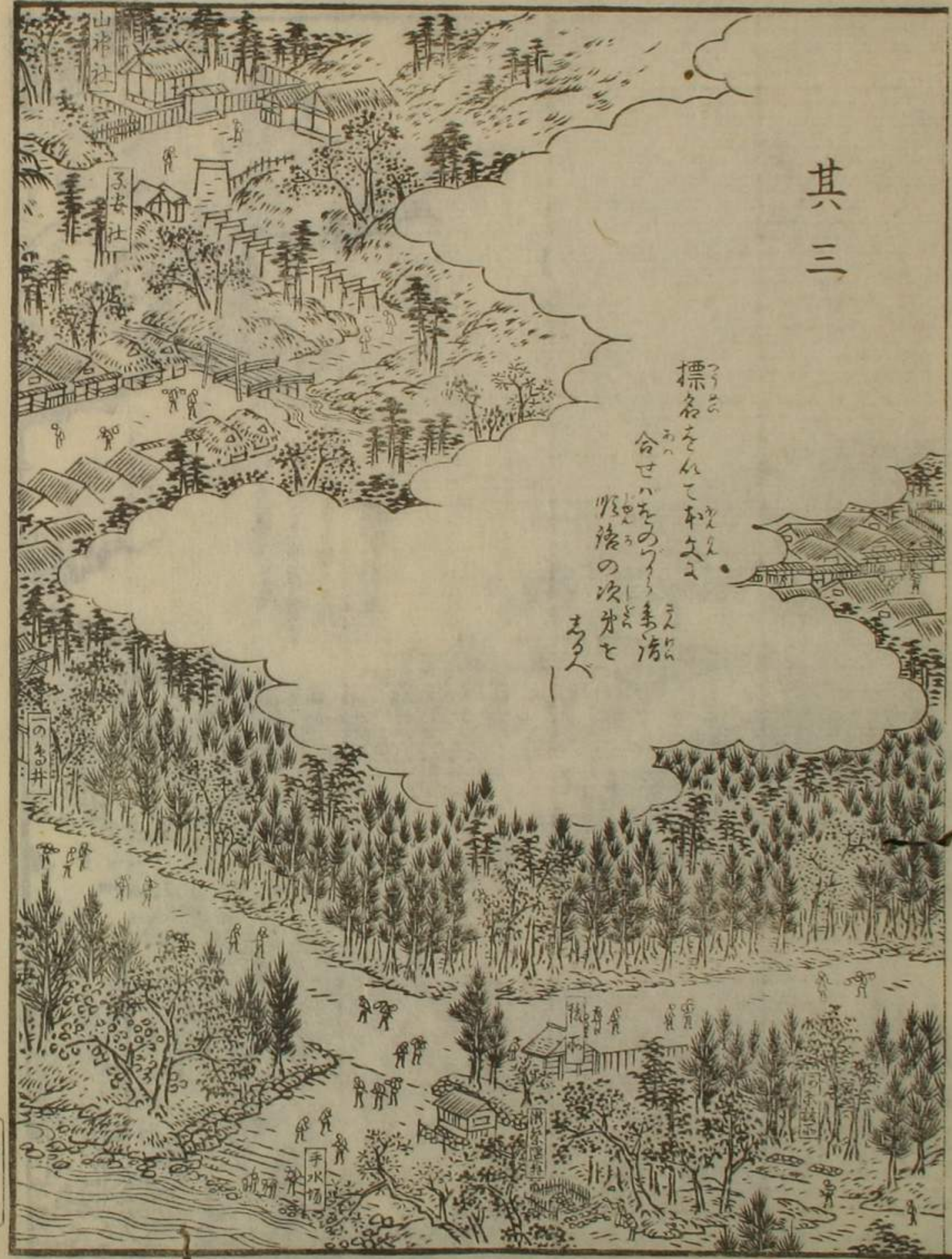
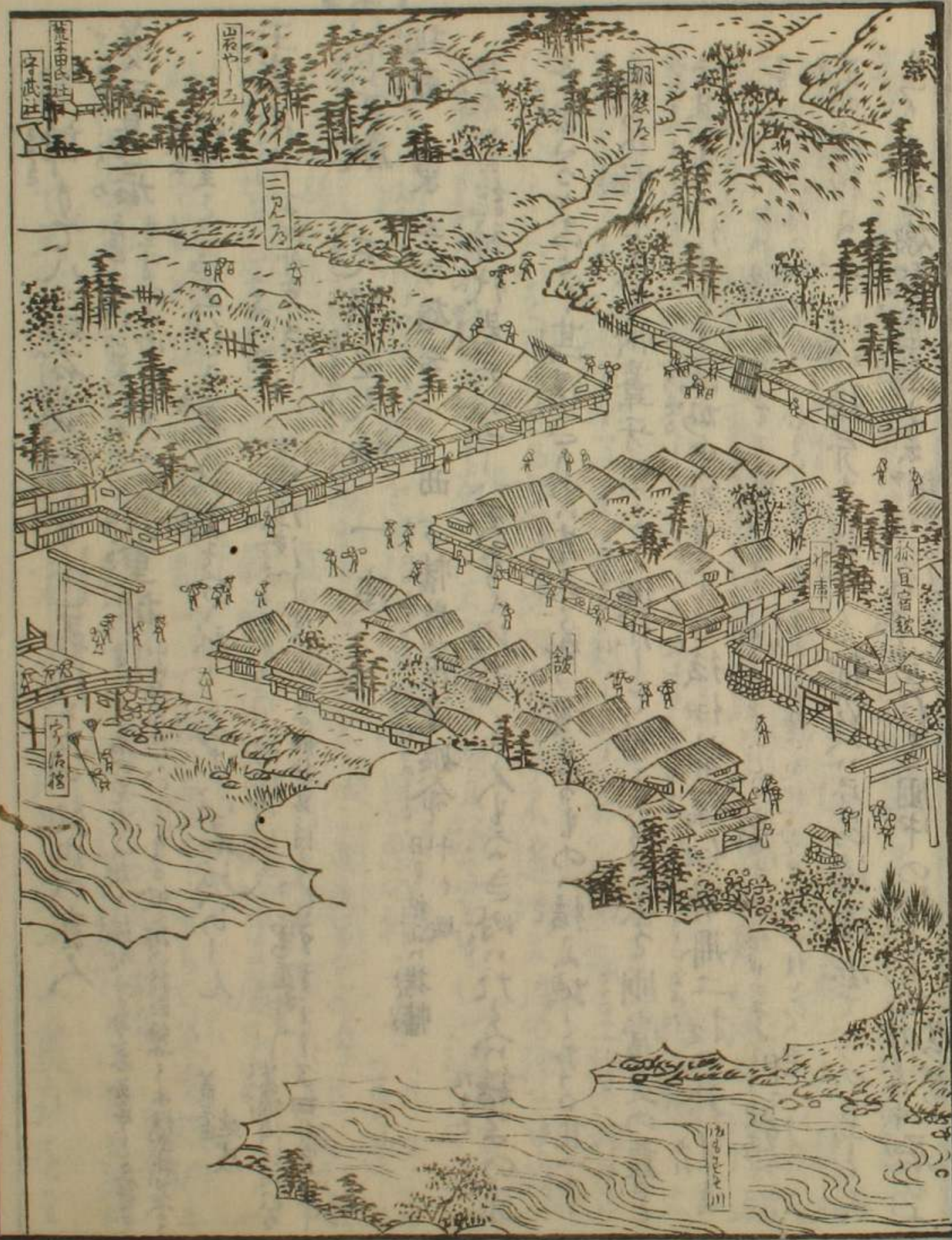
齋王候殿 齊王御門の内を其の外東の方より一 齊王候殿 齊王御門あり外宮御門あり

石壺 牙三の居の 子細外宮より一 石壺 牙三の居の 齊王御門あり外宮御門あり

ハツの石壺ありりしや荒本因延成の致し







其三

標名を以て和文
合せハそのついで
順位の次ガ七
人

神りて八ツの石壺をもちて其の内の宮人

第三鳥居

玉串御門玉串御門の末にあり ○八重排山形地忌内人のほり ○玉串御門玉串御門の塔内 ○玉串御門玉串御門の塔内 ○玉串御門玉串御門の塔内

八重八重とてきまけさき ○玉串御門玉串御門の塔内 ○玉串御門玉串御門の塔内

玉串御門

玉串御門玉串御門の塔内 ○玉串御門玉串御門の塔内 ○玉串御門玉串御門の塔内

内宮正殿

天照皇大神 一座

相殿

東 手カ雄命

西 万幡豊秋津姫命

日本書紀神代卷云

云其の物を生じて快葦牙の... 便化して神と成る... 伊弉諾伊弉册二柱の神生ま... 天の浮橋又立てて... 是を磯取廬島と云

はるふ二柱の神の方々男とつひ女とつひ其の元處一ツあり是を二柱の神とて

始て適合して夫婦とあり... 大八洲をせむ... 大八洲をせむ

草木を生れり次み天下主なるのせんそ日の神を生れり次み

日靈貴と云天照大神 此子光華明彩して六合の内照徹る二柱の神喜

ひ多ひくこれを天に送る此付天地相去るゆ不遠次み月の神と生

其光彩日の神と亞_{つげ}と云又天に送る次み蛭子と生む

次み素戔嗚尊をせむ此子勇悍暴悪の神とて

日の神の御田の時瓜毀ら又新嘗きにむと新宮を原をけり又

神衣を織給ふ天照皇神を削りて殿の甍を穿ちて星を投納

俣まして天の空に幽居給ふ且六合の内常照りて晝夜を

うさど 日老の禊 禊 禊 禊 のおま 此に抄ひく八十萬の神天の安河系も集會
して其禊びき方便を思兼神に計て 思兼神は思兼を別して入て 常世乃
長鳴鳥も長鳴せしめ 終これい東方明んと 手力雄の神を磐戸の側に立
せ天津兒屋根命右玉命の香の雲坂樹を教百株植へし
上の枝も多く瓊の統さるる懸中の枝み八咫の禊を掛け下の枝も
青幣白幣を懸て天の細女命茅纏の矛をおせ磐戸の系に桃
優 瓊後幣に其かりを教 瓊後幣に其かりを教 瓊後幣に其かりを教
神天のたらしめ 桃優のワサハ 桃優のワサハ 桃優のワサハ
此に於天照大神
磐戸を細く開きて穴視せしめて手力雄其御手を奉て引出しなり中

臣の神より端由繩を曳て復ひくし終るるなりとこひ禊びひやく
素盞鳴尊の髪を撿さ爪を撿く罪を贖ひかの根の圃を逐ちりけ
る 根の圃は地下のゆみて地を撿くはあはれなり 素盞鳴尊は 兼川とよみて
手力雄其御手を奉て穴視せしめて手力雄其御手を奉て引出しなり中
此に於天照大神
磐戸を細く開きて穴視せしめて手力雄其御手を奉て引出しなり中



瑞珠盟約

天照之神の尊まふ素戔嗚尊ハ生倭之男
 俾りて甚不る之ハ宇宙ノ君
 として勝むる之を二神の勅
 により根の國へ還りて終ふ尊を
 神の命高天原の神の君を見へ
 後永く退くを云霧を發せり
 て天に流り終ひて又盟いをして
 を神の尊の御を祖辭て田根瑞津姫
 市杵媛の三女とせし終ふ尊を神の御統
 の邊りてとて正哉吾勝天徳日天は
 是根治津彦然也櫛樟日の五男を
 せしたまふ

天照の尊化すよりの
 人の世を治るの義あり



崇^{あが}めり又^{また}兩宮を天神地祇と^し則^{すなはち}天地の父母と合せ祀奉^{まつりたが}は似^にたり
又^{また}云^いひて^は神代^{かみよ}の^り日本^{やまと}紀^き神代卷^{かみよ}を^んて證^{あかし}と^るより外^{ほか}に^は猶^{なほ}
あま々^{あま}物々^{もの}を^も諸^{しよ}説^{せつ}紛^ふ々^々と^して^は人の^か意^いを^んて^は解^とき^も悉^{ことごと}く信^{しん}ぢ^ぢ
に^まら^ずた^まふ^くも^の百^{ひゃく}億^{いん}美^み威^いの^く首^{むね}を^ん論^{ろん}と^して^はた^{また}も^の睡^{すい}死^じて^は言^{こと}
も^も強^{かう}て^は意^いを^ん張^たり^し臂^{うで}を^ん偉^{たか}く^して^は又^{また}も^の堪^かへ^ずる^も西^{せい}の^の教^{きやう}と^て
何^{なに}の^の事^{こと}も^もは^はか^かず^るに^はみ^みる^るに^はみ^みる^るに^はみ^みる^るに^はみ^みる^るに^はみ^みる^るに^はみ^みる^る
此^{こゝ}意^いを^んめて^は今^{いま}も^も尚^{なほ}此^{こゝ}に^は諸^{しよ}を^ん達^{たつ}洋^{やう}國^{こく}の^の人^{ひと}の^の心^{こゝろ}を^ん同^{どう}く^に實^{じつ}に^は何^{なに}も^もか
か^かま^ます^るに^はま^まの^の海^{うみ}を^ん巡^{めぐ}り^て来^きる^るに^はも^もい^いく^くか^かず^ずに^は實^{じつ}を^ん捧^{たも}
ひ^ひま^まに^は親^かを^ん仕^{つか}へ^るも^も雪^{ゆき}平^{ひら}の^の筆^{すぢ}を^んり^りと^し心^{こゝろ}め^めは^はま^まの^のあ
あ^あか^かり^りと^して^は遠^{とほ}く^くと^しせん^んや^や果^{これ}人^{れん}間^{かん}の^の実^{じつ}心^{こゝろ}に^は必^{かな}ず^ず教^{きやう}を^ん待^{まち}
知^しれ^るもの^のに^はあ^あか^かず^ずに^は不^ふ謂^い性^{せい}也^{なり}則^{すなはち}神^{かみ}明^{めい}の^の事^{こと}も^もせ^せる^るに^は尊^{うやまつ}と^しり^り利^りと

の^の力^{ちから}推^{おし}べ^べる^るに^はま^まの^の事^{こと}も^もは^はか^かず^ずに^はみ^みる^るに^はみ^みる^るに^はみ^みる^るに^はみ^みる^る
○[○]手^て力^{ちから}雄^{ゆう} 此^{こゝ}神^{かみ}の^の名^な戸^こ引^ひ用^{もち}き^き給^{たま}ひ^ひ強^{かう}力^{ちから}の^の神^{かみ}
○[○]摺^{すり}幡^{ばん}千^{せん}々^々姫^{ひめ}の^の神^{かみ}代^よ卷^{まき}下^{した}云^い天^{あめ}照^{てる}右^{みぎ}神^{かみ}の^の御^{みこ}子^ご天^{あめ}忍^{しの}穂^ほ耳^{みみ}尊^{のみこと}の^の御^{みこ}妻^{めかけ}に^は
○[○]高^{たか}皇^{みみ}産^{うぶ}靈^{たま}尊^{のみこと}の^の女^{むすめ} 或^{ある}説^{せつ}云^い摺^{すり}幡^{ばん}千^{せん}々^々姫^{ひめ}の^の神^{かみ}代^よ卷^{まき}下^{した}云^い天^{あめ}照^{てる}右^{みぎ}神^{かみ}の^の御^{みこ}子^ご天^{あめ}忍^{しの}穂^ほ耳^{みみ}尊^{のみこと}の^の御^{みこ}妻^{めかけ}に^は
○[○]御^{みこ}鎮^{ちん}座^ざの^の事^{こと} 日^ひ本^{ほん}紀^き書^{しよ}云^い日^ひの^の神^{かみ}名^な戸^こを^ん用^{もち}て^は出^でま^まに^は御^{みこ}鏡^{かみ}を^んて^は其^{その}空^{くう}居^いて^は授^{たま}
○[○]神^{かみ}武^ぶ衣^い公^{こう}采^{さい}代^{だい} 此^{こゝ}神^{かみ}代^よ卷^{まき}下^{した}云^い天^{あめ}照^{てる}右^{みぎ}神^{かみ}の^の御^{みこ}子^ご天^{あめ}忍^{しの}穂^ほ耳^{みみ}尊^{のみこと}の^の御^{みこ}妻^{めかけ}に^は
○[○]御^{みこ}宮^{みや}神^{かみ}威^い忍^{にん}波^は天^{あめ}の^の香^{かう}山^{さん}の^の荒^あ倉^{くら}を^んて^は鏡^{かみ}を^ん捧^{たも}ぐ^くに^は温^{ぬる}明^{めい}殿^{のみや}
○[○]御^{みこ}内^{うち}侍^{さむらい}不^ふ室^{しつ}銀^{ぎん}と^し名^な付^{つけ}内^{うち}裏^{うら}及^{および}々^々神^{かみ}代^よ卷^{まき}下^{した}云^い天^{あめ}照^{てる}右^{みぎ}神^{かみ}の^の御^{みこ}子^ご天^{あめ}忍^{しの}穂^ほ耳^{みみ}尊^{のみこと}の^の御^{みこ}妻^{めかけ}に^は
○[○]御^{みこ}年^{とし}又^{また}秋^{あき}九^{ここの}月^{つき}神^{かみ}女^{むすめ}御^{みこ}入^い姫^{ひめ}と^し附^つけ^る大^{おほ}和^わ國^{くに}三^{さん}鏡^{かみ}の^の邑^{むら}に^は付^{つけ}て^は破^{やぶ}城^{じやう}の^の神^{かみ}
○[○]御^{みこ}籬^{さき}を^ん三^{さん}つ^つの^のき^きな^なる^る其^{その}後^{のち}大^{おほ}神^{かみ}の^の教^{きやう}を^んり^りて^は豊^{とよ}御^{みこ}入^い姫^{ひめ}大^{おほ}神^{かみ}を^ん戴^{かぶ}り^り
○[○]御^{みこ}因^{いん}々^々宮^{みや}不^ふを^ん求^{もと}め^め給^{たま}ふ^ふ又^{また}年^{とし}老^{おい}給^{たま}ひ^ひに^はり^りて^は人^{ひと}皇^{みみ}十^{じゆ}代^{だい}垂^た仁^に天^{あめ}の^の皇^{みみ}

神女大倭姫命是みかまりて義和の御諸の宮より諸國順覽ある遷幸乃
を畏れしに 終に同御宮二十六丁十月甲子宇治郡又十餘川の邊りに
移りなり相殿より天恩屋根命を王命きりくろ其後外宮御鎮
座の御此二神を外宮の西相殿より移り○正殿と巽の宮又十餘川の宮
後の宮とも朝日の宮ともを第一流儀の宮と齊宮の宮と

神凡や初日の宮の宮より一統のとくたる世にそありん
神の代のまや巽のうられ都のを今朝霞むらん
度會 元長 謙倉 右大臣

○心御柱の玉座の下に齋ひ鎮め給ふ是を天御皇柱とも天御柱とも申
奉れ深秘あるとぞ 文永二年八月十八日内宮御柱三より移りたりん

○内宮のより初建の義にて大内裏とまがさる内宮御柱の初建と云ふ古事記
よしく御名を宇治といふ内の義其内宮御柱にて豊受と外宮といふ後建の
流言に 延喜式より度會宮と云内宮御柱座の始日本紀より富仁天皇二十
六年十月おのさといふとも九月十七日おのさ長曆と云揚り申すめて記めり

神路山 宮城のちがり 一名大天照山 宇治の御日ともいふ

千載集圓位法師 宇治の御日ともいふ 延喜式より 宇治の御日ともいふ
千載集圓位法師 宇治の御日ともいふ 延喜式より 宇治の御日ともいふ
千載集圓位法師 宇治の御日ともいふ 延喜式より 宇治の御日ともいふ

かじはくそむらんまでもとるれよ天照と此杖の疾乃月

百枝松 内宮御柱本末て神路山にあり
後波もこもともそ川の末たれや志向え成りけよ松の百枝 俊成

東宝殿 西宝殿 正殿の東西あり ○宿衛殿 本宮の傍に首尾ありしが宿衛一守と

- 八十末社 本社の御前より右にあり
- 一村澤神社 本社の御前より右にあり
- 三橋大カ自神社 本社の御前より右にあり
- 五大山祇神社 本社の御前より右にあり
- 六川原神社 本社の御前より右にあり
- 七條堂津知神社 本社の御前より右にあり



石窟幽居
いしくつゆうきよ



八久具都社 不奈久具都姫命 九大神河 不奈大神河 不奈大神河 不奈大神河
十久々都彦社 不奈久具都彦命 十一倭加利比女社 不奈倭加利比女命 不奈倭加利比女命
社 十二宇治乃奴鬼社 不奈宇治乃奴鬼命 十三御裳濯比賣社 不奈御裳濯比賣命 不奈御裳濯比賣命
命上云那自 十四湯田社 不奈湯田命 十五宮比社 不奈宮比命 不奈宮比命
賣社社内云 十六朝熊水社 不奈朝熊水命 不奈朝熊水命 不奈朝熊水命
角云 十七寒川姫社 不奈寒川姫命 不奈寒川姫命 不奈寒川姫命
郡牟弥社 十八荒茶姫社 不奈荒茶姫命 不奈荒茶姫命 不奈荒茶姫命
社内云 十九大社 不奈大社命 不奈大社命 不奈大社命
御倉川社 不奈御倉川命 不奈御倉川命 不奈御倉川命
御田社 不奈御田命 不奈御田命 不奈御田命
不 廿二堅回社 不奈堅回命 不奈堅回命 不奈堅回命
多互社 不奈多互命 不奈多互命 不奈多互命
廿六丈歳社 不奈丈歳命 不奈丈歳命 不奈丈歳命
廿八字加御意社 不奈八字加御意命 不奈八字加御意命 不奈八字加御意命
三十大社 不奈三十大社命 不奈三十大社命 不奈三十大社命
持羅 卅二棒原社 不奈棒原命 不奈棒原命 不奈棒原命
社 卅四栖長姫社 不奈栖長姫命 不奈栖長姫命 不奈栖長姫命

当郡中治郷 卅五阿波美石社 不奈阿波美石命 不奈阿波美石命 不奈阿波美石命
細村云 卅七櫛玉社 不奈櫛玉命 不奈櫛玉命 不奈櫛玉命
山田社 不奈山田命 不奈山田命 不奈山田命
大社 不奈大社命 不奈大社命 不奈大社命
不奈大水上 兎曾奈比古 卅一大國玉比女社 不奈大國玉比女命 不奈大國玉比女命
命 不奈命 不奈命 不奈命
卅三江社 不奈江命 不奈江命 不奈江命
社 卅四 不奈社 不奈社 不奈社
卅五 不奈社 不奈社 不奈社
卅六 不奈社 不奈社 不奈社
卅七 不奈社 不奈社 不奈社
卅八 不奈社 不奈社 不奈社
卅九 不奈社 不奈社 不奈社
卅十 不奈社 不奈社 不奈社
卅十一 不奈社 不奈社 不奈社
卅十二 不奈社 不奈社 不奈社
卅十三 不奈社 不奈社 不奈社
卅十四 不奈社 不奈社 不奈社
卅十五 不奈社 不奈社 不奈社
卅十六 不奈社 不奈社 不奈社
卅十七 不奈社 不奈社 不奈社
卅十八 不奈社 不奈社 不奈社
卅十九 不奈社 不奈社 不奈社
卅二十 不奈社 不奈社 不奈社
卅二十一 不奈社 不奈社 不奈社
卅二十二 不奈社 不奈社 不奈社
卅二十三 不奈社 不奈社 不奈社
卅二十四 不奈社 不奈社 不奈社
卅二十五 不奈社 不奈社 不奈社
卅二十六 不奈社 不奈社 不奈社
卅二十七 不奈社 不奈社 不奈社
卅二十八 不奈社 不奈社 不奈社
卅二十九 不奈社 不奈社 不奈社
卅三十 不奈社 不奈社 不奈社
卅三十一 不奈社 不奈社 不奈社
卅三十二 不奈社 不奈社 不奈社
卅三十三 不奈社 不奈社 不奈社
卅三十四 不奈社 不奈社 不奈社
卅三十五 不奈社 不奈社 不奈社
卅三十六 不奈社 不奈社 不奈社
卅三十七 不奈社 不奈社 不奈社
卅三十八 不奈社 不奈社 不奈社
卅三十九 不奈社 不奈社 不奈社
卅四十 不奈社 不奈社 不奈社
卅四十一 不奈社 不奈社 不奈社
卅四十二 不奈社 不奈社 不奈社
卅四十三 不奈社 不奈社 不奈社
卅四十四 不奈社 不奈社 不奈社
卅四十五 不奈社 不奈社 不奈社
卅四十六 不奈社 不奈社 不奈社
卅四十七 不奈社 不奈社 不奈社
卅四十八 不奈社 不奈社 不奈社
卅四十九 不奈社 不奈社 不奈社
卅五十 不奈社 不奈社 不奈社
卅五十一 不奈社 不奈社 不奈社
卅五十二 不奈社 不奈社 不奈社
卅五十三 不奈社 不奈社 不奈社
卅五十四 不奈社 不奈社 不奈社
卅五十五 不奈社 不奈社 不奈社
卅五十六 不奈社 不奈社 不奈社
卅五十七 不奈社 不奈社 不奈社
卅五十八 不奈社 不奈社 不奈社
卅五十九 不奈社 不奈社 不奈社
卅六十 不奈社 不奈社 不奈社
卅六十一 不奈社 不奈社 不奈社
卅六十二 不奈社 不奈社 不奈社
卅六十三 不奈社 不奈社 不奈社
卅六十四 不奈社 不奈社 不奈社
卅六十五 不奈社 不奈社 不奈社
卅六十六 不奈社 不奈社 不奈社
卅六十七 不奈社 不奈社 不奈社
卅六十八 不奈社 不奈社 不奈社
卅六十九 不奈社 不奈社 不奈社
卅七十 不奈社 不奈社 不奈社
卅七十一 不奈社 不奈社 不奈社
卅七十二 不奈社 不奈社 不奈社
卅七十三 不奈社 不奈社 不奈社
卅七十四 不奈社 不奈社 不奈社
卅七十五 不奈社 不奈社 不奈社
卅七十六 不奈社 不奈社 不奈社
卅七十七 不奈社 不奈社 不奈社
卅七十八 不奈社 不奈社 不奈社
卅七十九 不奈社 不奈社 不奈社
卅八十 不奈社 不奈社 不奈社
卅八十一 不奈社 不奈社 不奈社
卅八十二 不奈社 不奈社 不奈社
卅八十三 不奈社 不奈社 不奈社
卅八十四 不奈社 不奈社 不奈社
卅八十五 不奈社 不奈社 不奈社
卅八十六 不奈社 不奈社 不奈社
卅八十七 不奈社 不奈社 不奈社
卅八十八 不奈社 不奈社 不奈社
卅八十九 不奈社 不奈社 不奈社
卅九十 不奈社 不奈社 不奈社
卅九十一 不奈社 不奈社 不奈社
卅九十二 不奈社 不奈社 不奈社
卅九十三 不奈社 不奈社 不奈社
卅九十四 不奈社 不奈社 不奈社
卅九十五 不奈社 不奈社 不奈社
卅九十六 不奈社 不奈社 不奈社
卅九十七 不奈社 不奈社 不奈社
卅九十八 不奈社 不奈社 不奈社
卅九十九 不奈社 不奈社 不奈社
卅四十 不奈社 不奈社 不奈社

上ノ見也
今云山社 ○五十八魚見社 不系月夜足命考玉彦 ○五十九村田比女神社
不系村田比女命本社 今山社 ○六十川合社 不系細川水命本社
國津御祖社内方 ○六十二國津御祖社 不系水命本社
社 不系伴野冊命本社中村西の長寛
生社兜又田村比咩命二坐大津御
社社地良方或云日郡捕部村也
○六十四新川神社 不系新川比女命大水兜
比古命佐良比女命
本社日郡捕部村也 ○六十六佐々江神社 不系未洋命本社
社 不系未荒荒比咩命本社
社地未洋或云日郡捕部村也 ○六十八速川比古神社 不系須麻呂女社比佐
村也 ○六十九獲田國生社 不系速川比古速川比女
命多季郡佐田村也

己上六十九社本宮の東南の角より依り奥のよと
西鳥居 是と蓋垣西御門と
玉垣御門の西方より
本宮右殿 九ヶ年一遷宮
興玉拜不石壇 西面本宮の東の角より興玉拜とあり
御稻御倉 直玉將不
御稻を納る倉是日中あり今ハ字跡より是と依
み御機殿と稱せし御政印も此に納む
毎中好りし九月十一日社

みは十日の夕又御稻の御倉に御機殿を織りてをちり 高番の釘丁毎水
を汲で機殿へ送る方ありとあり此不之是の幸なり
一元社 御稻倉の傍あり 國津神社の別名なりとあり
裏御門 子相外宮 ○北鳥居 荒垣の西御門より
○小玉垣御門 ○小玉垣

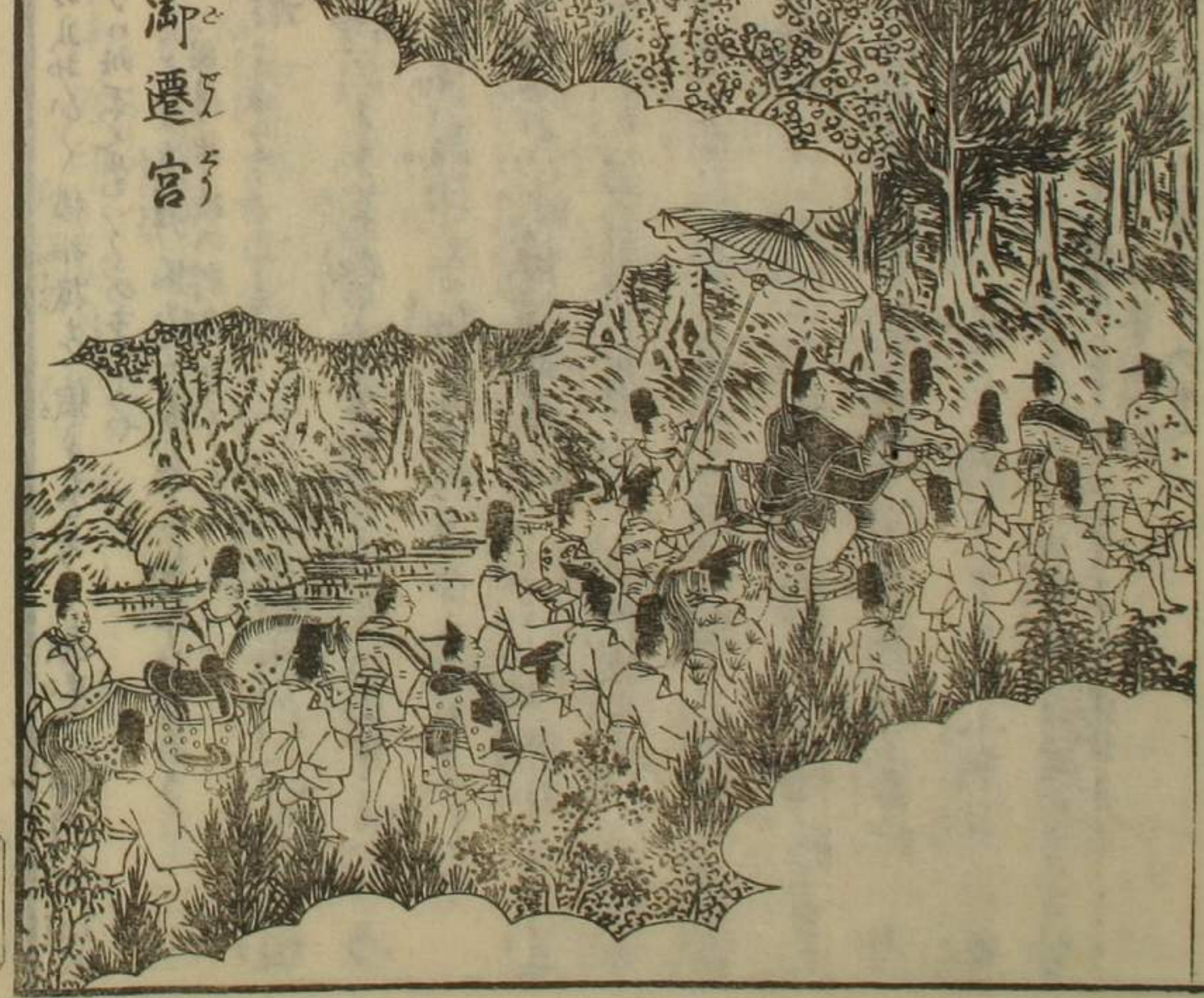
御門 ○若く外宮に曰く此御門より荒祭の宮へ至る間東の山中又一ツ乃
其あり也 是を掩ふに御政印を押する時用ゆる水ありとあり
荒祭宮 本宮の山の 第一の別宮 不系瀬織津姫命 又云天跡向津姫 則本宮の荒
魂とあると云日まを高宮云別宮は皆萱草よりなる本體本御門御垣
荒祭宮の若く東西の遙拜不 先西面外宮と稱すと又西の隅より月讀宮
伴野諾宮瀧原並宮と稱し中と次々東南の隅と稱し其伴野諾宮
次々又西の隅と稱し中と高宮去宮新月讀凡宮高神宮小御
門社外宮抄社末社 次々又東の隅より小御門社
社云 月讀の宮三の別宮を洛中村にあり本宮より十八町 伴野諾の月讀の西の方には
遠の宮 瀬織津姫命 宮川の上野尾村にあり伴野諾志の
國津御祖内宮より十里余あり 伴野諾の宮は志の國



新後拾遺
 後三条系内臣
 此國其符を足
 留めしはわが
 してさか人の國を
 摸りぬるは杜撰
 圖記をくまうは
 して裁者の教本
 つまてを改む尚
 後日の改訂
 見れば



御遷宮



御池 巡り百八十間あり遙拜石の
石橋と少経を同あり水と云
○河島神社 藤原附属の社あり
橋宮 大石の丸の
不系木花開耶姫命
則小朝熊六坐とも此又係せ遙拜と

神風みやととどまうせつる橋のさやの花のさうまは
西行

○河原神社 不系木花開耶姫命が社時鹿村より
藤原宮附属の社に神号未詳
橋の宮の辺あり

由貴殿 一殿の
酒殿 神酒を造る
此二宮共酒殿の院内之此酒殿より天
逆を刀天の逆祥を納む深秘の者ありと云
又三祭の前後毎に献
御饌より色物納む院之由貴といひ法むるの者
十二月の神事あり

朝廷遙拜石 由貴殿の傍橋
帝を拜しを於不かり
子良館 二の宮あり右の方
子良物忌又子の宿殿に子細外宮あり

慶長十二年國母より内宮子良の殿に貝掛の桶一具を賜るあり今又彼殿に
其貝桶の蓋のうら且双方を紙ありて其内云
神風やももを川のさめより子良の子より若あり船々の神つゝ外のほとく
さしおとさむべしおのふりてあそびのさして下けたくも國母仙院より貝
桶をさし給つる彼大中長補弘がまきを以て申され松のむらと流どくも不
このふらやとわらひあせらしたる右みまうらうの者の二尺とこの桶よりわら

所名

あかめやわかせぬうけ給りくこれよりをさくまうけつるふら
かづのふらみち
伊勢の國二見の浦そよふ
玉くけふとみ浦の貝さけとみれ急は見ゆ松のむら
大中臣補弘

五十鈴川橋長と
俗又凡の宮の橋と云九のかふ系橋に僧尼のまがたふたり
樹の花後みもあり
擬家殊に造宮毎に新製とゆるも西の角むらう改むらふは
これに明應七年の年号あり

僧尼拜所 五十鈴川を隔て
子細外宮あり
内宮身七の別宮に子細外宮あり
風宮 五十鈴川橋より
内宮を牽いて凡早々の停止を祈る

末社 凡の宮の東南又十一社あり
上六十九社又合して八十末社と云
氏神社 不系木花開耶姫命が社
久母宇津神社 不系木花開耶姫命が社
熊瀨神社 不系木花開耶姫命が社
谷又 山神社 不系木花開耶姫命が社
國見神社 不系木花開耶姫命が社
石登宇
山宮神社 不系木花開耶姫命が社
天神社 不系木花開耶姫命が社

熊瀨神社 不系木花開耶姫命が社
御伴神社 不系木花開耶姫命が社
已上十一社

良怒親王 應于勅書



御お藝え小こ屋や

八百會遙拜所 方良の館の西の 八百万神を拜しなむ

瀧祭宮 第一別宮 又良館南の道の末 不祭波女神 又良館波女神 共十

ていふ 一より 神殿 いさく 石壇 の 也 水の神を崇む 又瀧の宮の本社に八十餘川

荒れ下は又瀧ありこれを瀧の宮のふらとて此邊を又百神といふ守基神を神位に又瀧の宮に

瀧宮並宮 瀧の宮の

浪と足元花の志門之の岩掩瀧の宮りや善よとむらん 西外

瀧の原さういの宮乃神たり 松末はくく 沖津去る浪 鳥家

河原後所 凡の宮の格より 未清記云又十餘川と河原瀧川の落合さういふ

落合川原 瀧の宮の神の 後門集集後勢の神清の月の移の本とをよかくとくともとそ門のうの海あいの

所名

月とや神路の果又出ぬらし河河のうにげそとじき 前大僧正 通海

終中宮

河合社 瀧宮石壇の南 不祭細川水神儀式帳名社十二本の内はく河遷宮乃

時神室を清らなれ 右記の儀は清らなれ人のこれより一のを右に記す 祿宜の

河尻 右内外の河尻二本あり とや 神馬 い 一 の 船 を 進 ら せ ら

高倉殿 河遷宮の耐古 河神室 の 概 換 を 収 め せ ら

山神社 宇治橋の東 山祇命 此 石 舟 田 と 一 の 名 を 祀 り 多 く 又 一 儀

石舟神社 石舟田 これを 巖 の 社 も 云 儀 式 帳 名 社 又 本 の 内 の 不 祭 波 神 共 十

荒本回氏社 此 近 年 回 田 回 氏 社 也 又 此 儀 式 帳 名 社 あり

守武神 主 大 永 天 文 の 比 内 宮 の 長 官 荒 本 回 氏 と 一 の 連 歌

荒本回の祖神は天見通命を祀る也此神の事あり

又守武重神を此宮に祀る也

の式をいづむ指吟のまひ中百首の担あり字活のなみ群衆のまひみみみ

船奥よりうふま見ゆらん我共々々

神路に我共々々かきも好きもこのまの風

天文十八年八月九日

元日や津代のこころも押さるる

一拾五
守武

△内宮系指吟を記す南條雜宮より船奥のわりとありて二つより川邊にうるとの

御贄小屋 大宮の右の方より小屋あり破辺の邊に川橋へ持出る魚釣の神徳

を此に納む外宮御贄棚より

一の瀬 これの内宮より破辺村へ移るに破辺村とある川の川をさすは長尾の川と云ふ

三方石 三方石ありて三方石ありて三方石ありて三方石ありて三方石ありて

板坂 内宮より長尾の川をさすは長尾の川と云ふ

のりてある ○長尾 長尾の川をさすは長尾の川と云ふ

又其と云ふ ○船留石 船留石ありて船留石ありて船留石ありて船留石ありて

此より川沖へ出たり三つ余り又六つありて船留石ありて船留石ありて船留石ありて

此より酒肴をとりて船留石ありて船留石ありて船留石ありて船留石ありて

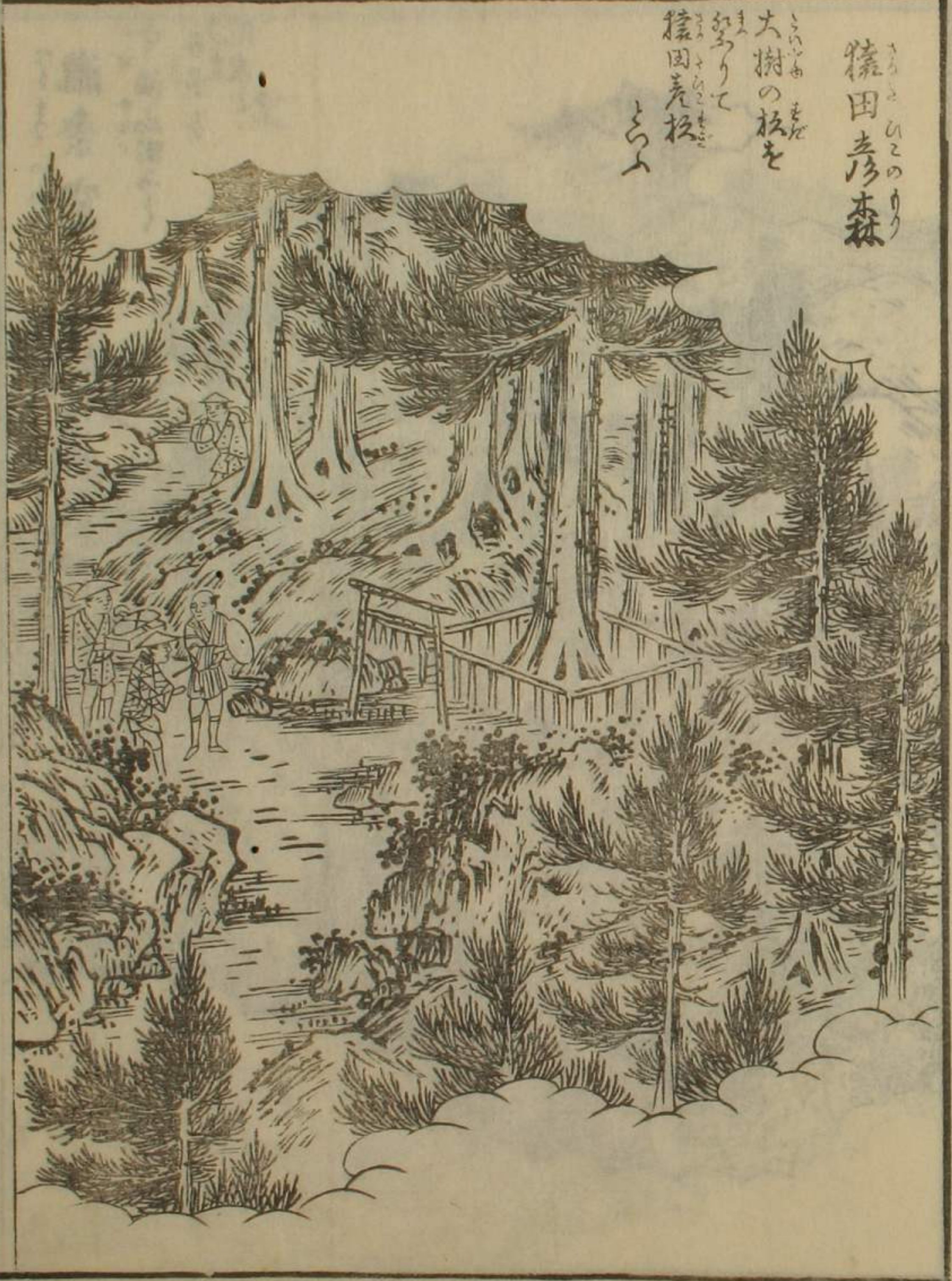
と名づく ○獅子鼻石 獅子鼻石ありて獅子鼻石ありて獅子鼻石ありて獅子鼻石ありて

猿田彦彦森

大樹の枝を

猿田彦彦

と云ふ





合石 扱坂より又十町餘に地蔵堂ありて是勢及志及の境に
 此不後田表若神優雅命と出合とひい地へとを
 後田表若神 合坂より下此森の枝のくく行枝みせ入り有るなりと云
 瀧祭空屋 合坂より下ありて 赤いを居あり是より谷二町斗りて岩空あり
 其穴入り九十間ばかりありて瀧の瀧祭寓と標石を置たり
 家立茶屋 合坂より下ありて此不後田村師より赤宮人を出入り不あり
 甑石 合坂より下ありて此石の右より大晦日の夜湯気立ちとひい地へ
 甑石 十町餘ありて 甑石より二町斗 甑石を標石を携る石離あり是若神宮の地と云
 多ひい不之と云私甲華は石甑と云て山人の器用と云龍頭取腹詩有
 巧匠新山骨割中葉煎京直柄未當權塞口自舌聲 下畧
 宮川 此名いづきの附よりひい地へひい地へやまふ地
 鷓鴣石 是を和合山と云街道の三町 高十七間物の音又音より石の抱ひい
 おく其音をば不あり是と石とを交するを教と云是をさけ石と云此外
 とさとり岩縮かけ松と云あり尚園上よまると云



家立茶屋
 後田表若神此地を圍む
 赤いを居ありて此森の枝のくく行枝みせ入り有るなりと云
 合坂より下ありて此石の右より大晦日の夜湯気立ちとひい地へ
 合坂より下ありて 赤いを居あり是より谷二町斗りて岩空あり
 合坂より下ありて此石の右より大晦日の夜湯気立ちとひい地へ
 合坂より下ありて 甑石より二町斗 甑石を標石を携る石離あり是若神宮の地と云
 此名いづきの附よりひい地へひい地へやまふ地
 是を和合山と云街道の三町 高十七間物の音又音より石の抱ひい
 其音をば不あり是と石とを交するを教と云是をさけ石と云此外
 とさとり岩縮かけ松と云あり尚園上よまると云



鷓鴣石 かね和合山

石の透り
石碑あり

うぐいしや内外

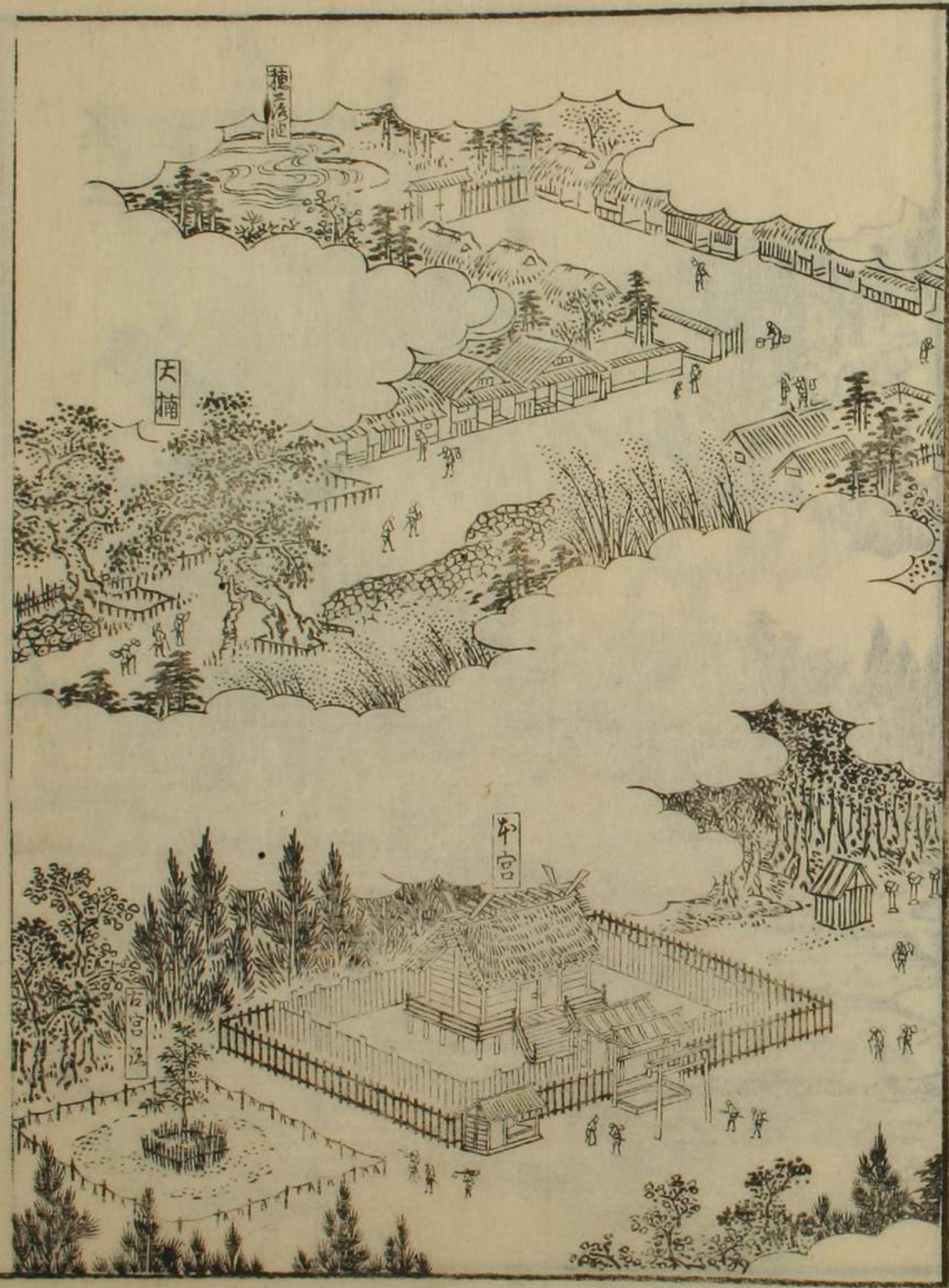
石

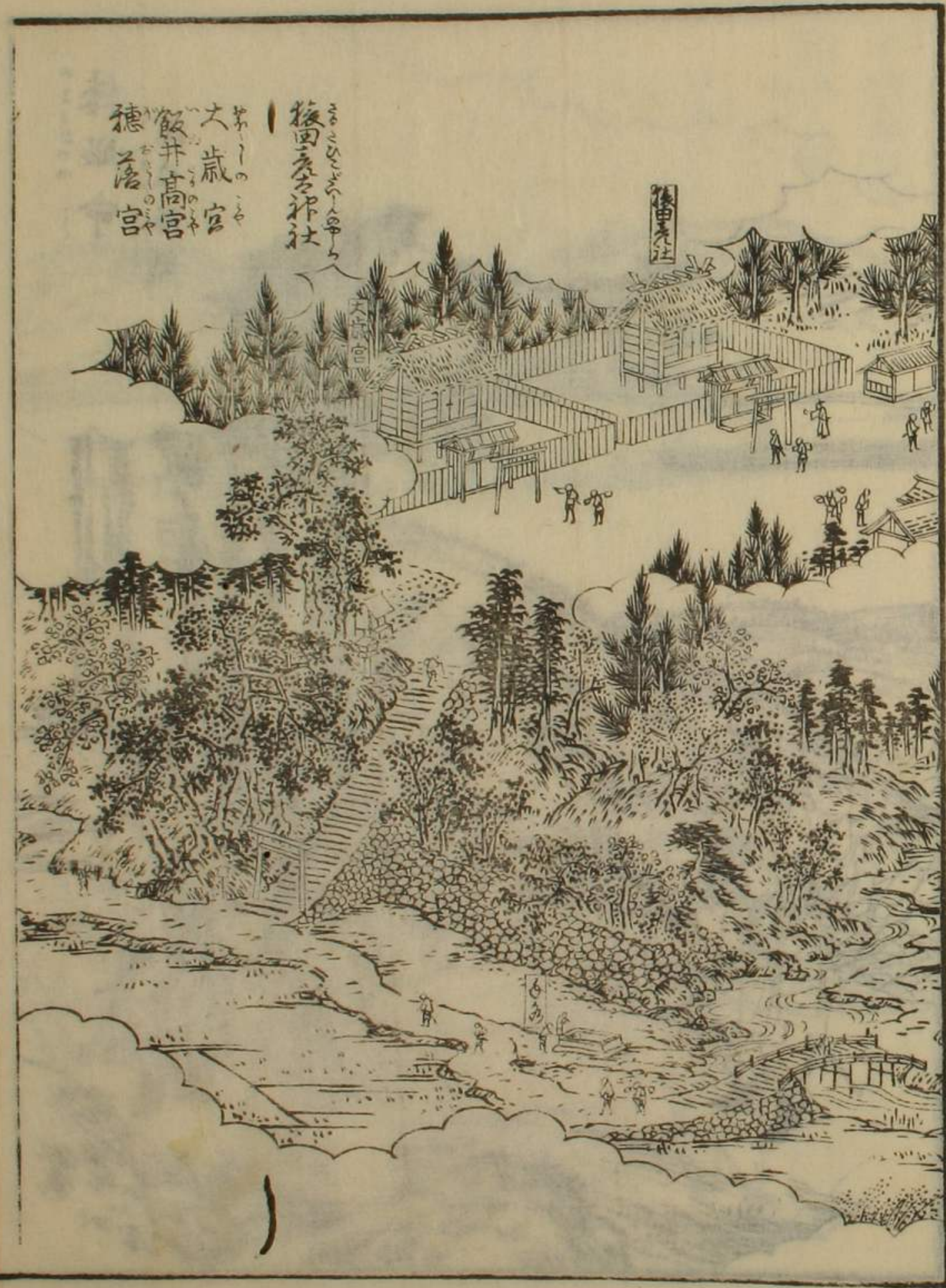
合散堂
不言

け石此

同ん杖の

天全弁
仲書





大歳宮
 飯井高宮
 徳之宮
 榎田神社



其二

林派百首

杖の回

徳之宮

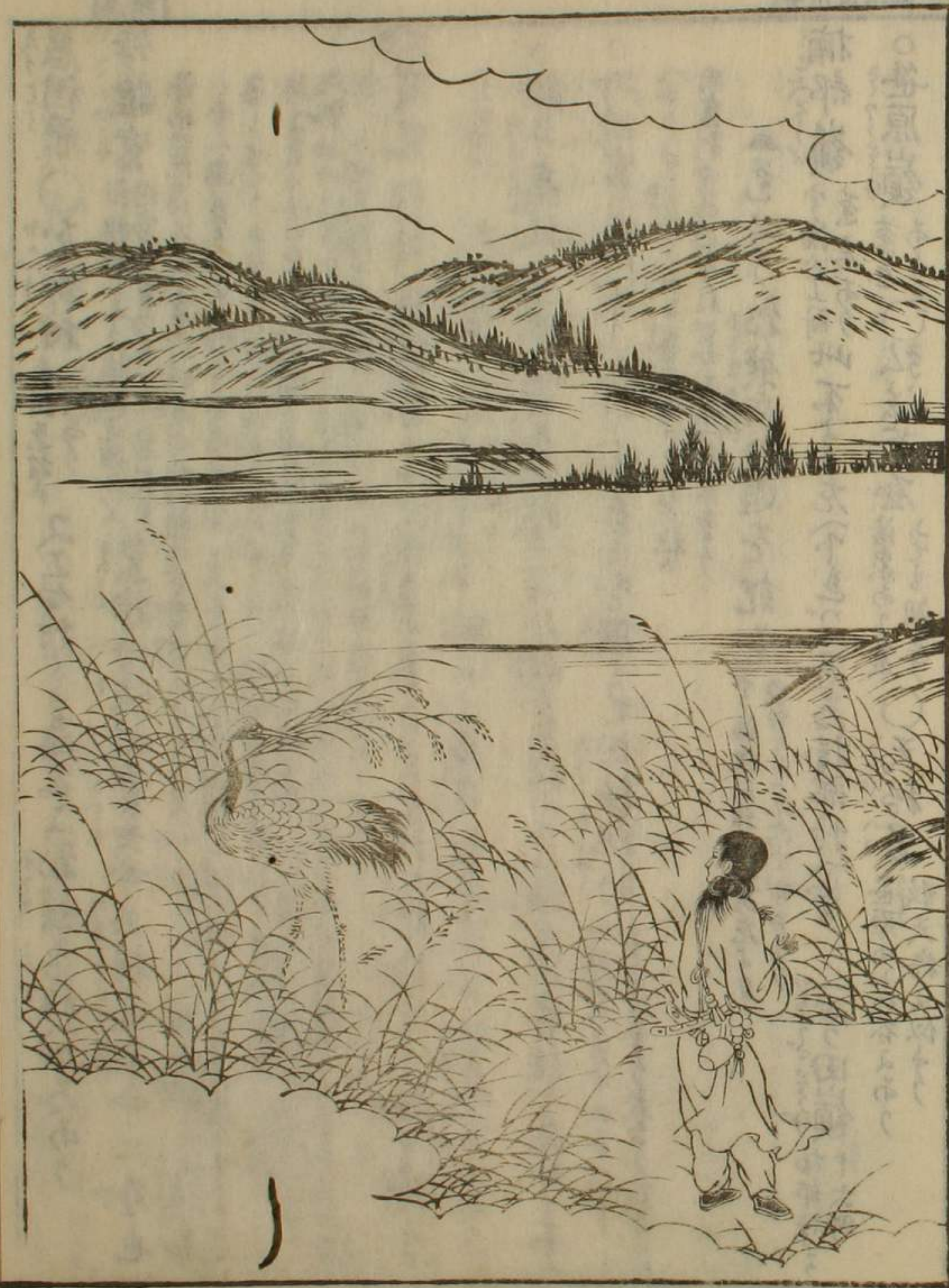
水好つへそ

押り人

久し鶴代

度會え長

千田



所名

惠利原 ○本郷村 惠利系村 又上村とも云此不又知然を將(の)るあり

伊雜宮 内宮別宮の其一内宮の三里 倭姫世元曰古神宮伊雜宮の始伊雜の方葦原の中よそのの伊雜宮と云ふは倭姫命玉柱屋姫命二座也
と舎人麻良をててたせしめ給ふよ中よ二幸ふて来り子種は滋る楯を白くさす勢の味持てさう
なかり鳴りされど足取とよ及んで鳴やミタリ倭姫命伊雜宮に幸向ぬるをさう因能りて太
神はさるりのをよとて被禰と伊佐波登天の神は後後又後一々天懐主也乙種は酒能りしめさ
伊雜神也よ神於彼生ひ一不承子田と名つけま承又伊佐波登天の神宮相造りてさす神の楯
社とて被禰を大蔵神と号けし即此伊雜の宮と云ふなり

大歳宮 或は後辺の高宮と云ふ種落の宮とも云ふ神共那那神なり種を喰へる
を落せし種落と云ふ種落大蔵訓 額且大歳宮 飯井高宮 種落宮とあり

飯井高社 祭神猿田彦大神と此外救世末社あり ○種落の池は種と落せし
御田宮の南にあり 又月上旬吉日を撰て 田植執事 此後辺の宮中のみあり
内宮別宮の内なりしが名をさるるべきなり

楠部嶺 宇治六上町 茶店あり 此不より 龍下と云ふは楠部村(出) 一宇田嶺 十六町
○笹原山嶺 茶店あり ○弘法茶屋 法泉あり 甚 天狗岩 笹原の山の谷あり
天狗岩 天狗又似たり

郡會度州勢

所名

朝熊山嶽 内宮より八十町一宇田嶺より廿町茶
屋より二十余町下なる朝熊村なり

神さひてあはしく 且みわたりぬらん 波よれり 朝熊のこや
系諸記云 奇くを二んして朝熊の宮よまわりぬ此不を倭姫(の)女神と云うありて年月
をわくらせ給ひたりぬれ神後(の)種よせはより内宮(の)うわ(の)世給ひたりと云ふは
の宮と云わたりぬ中よ空殿をほくとも朝日さらよ百孫のうけをくさず下(の)石
をよちて後月と云ふは人の宮のひかりをさすはせり此不をさすはせり
されども樹木悉くあり水のかりのかりされも波瀾と云ふは心明後のおきと云ふ

岩舟辨財天 倭姫の右の方あり 四七五
○万金丹 世間茶屋と云ふは祖の尾張野る内海より出りるれが
先か九山八智破辺(の)形あり 舟津より此不(出)るあり

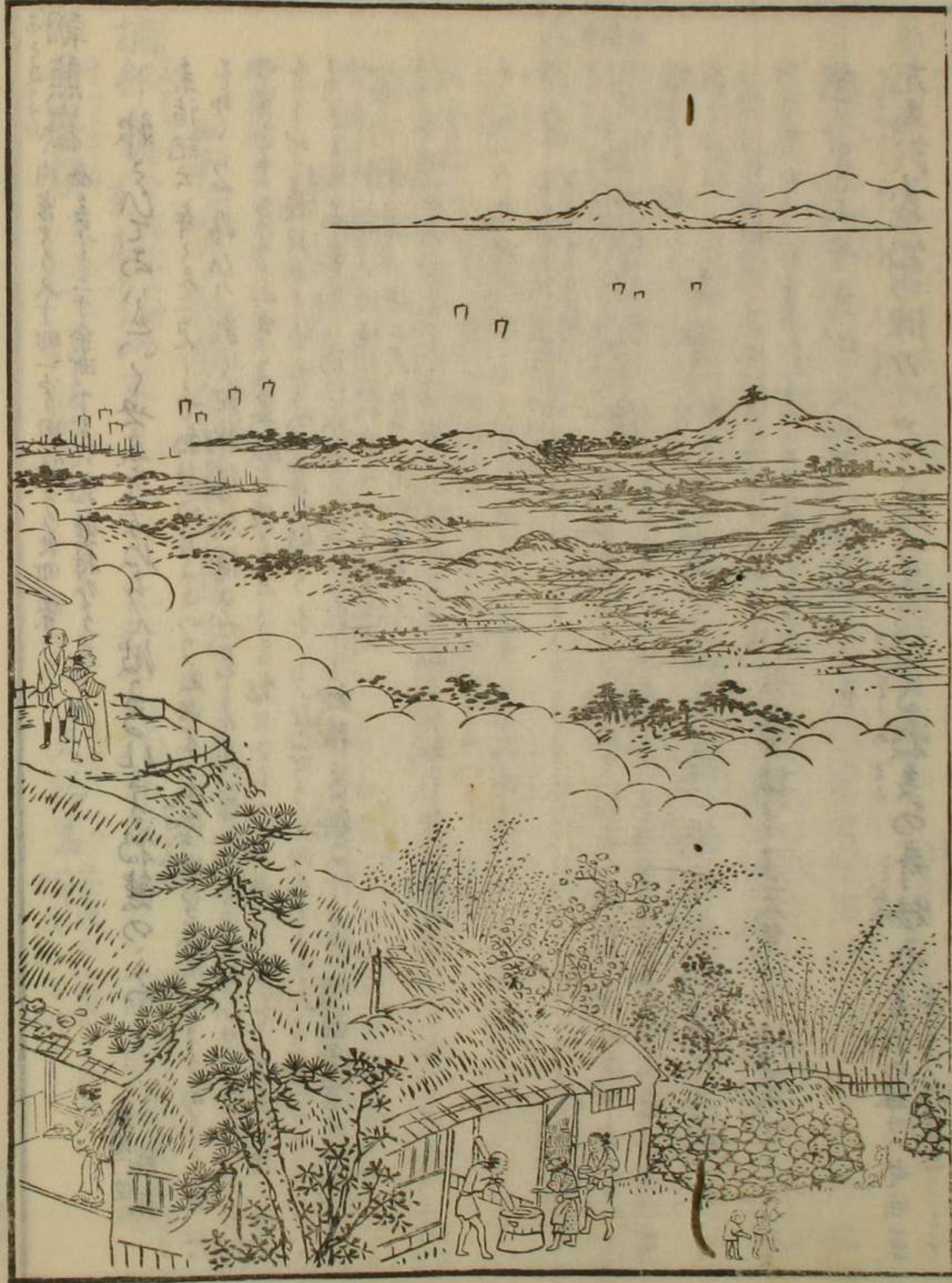
下乘 此より中
勝峯山金剛證寺兜率院 禅密兼宗あり 塔院十二坊あり 岡山敬侍 和尙中興(の)法
接して海 ○本堂 九間 本尊 虚空藏菩薩 佛牙舍利塔 本(の)本
三二に方の空殿の内よ七寸に方さす寸斗の空壇 昔聖徳太子天皇より 傳来せしと云
内よ長寺をす八分七八分はに方の舍利と云ふ

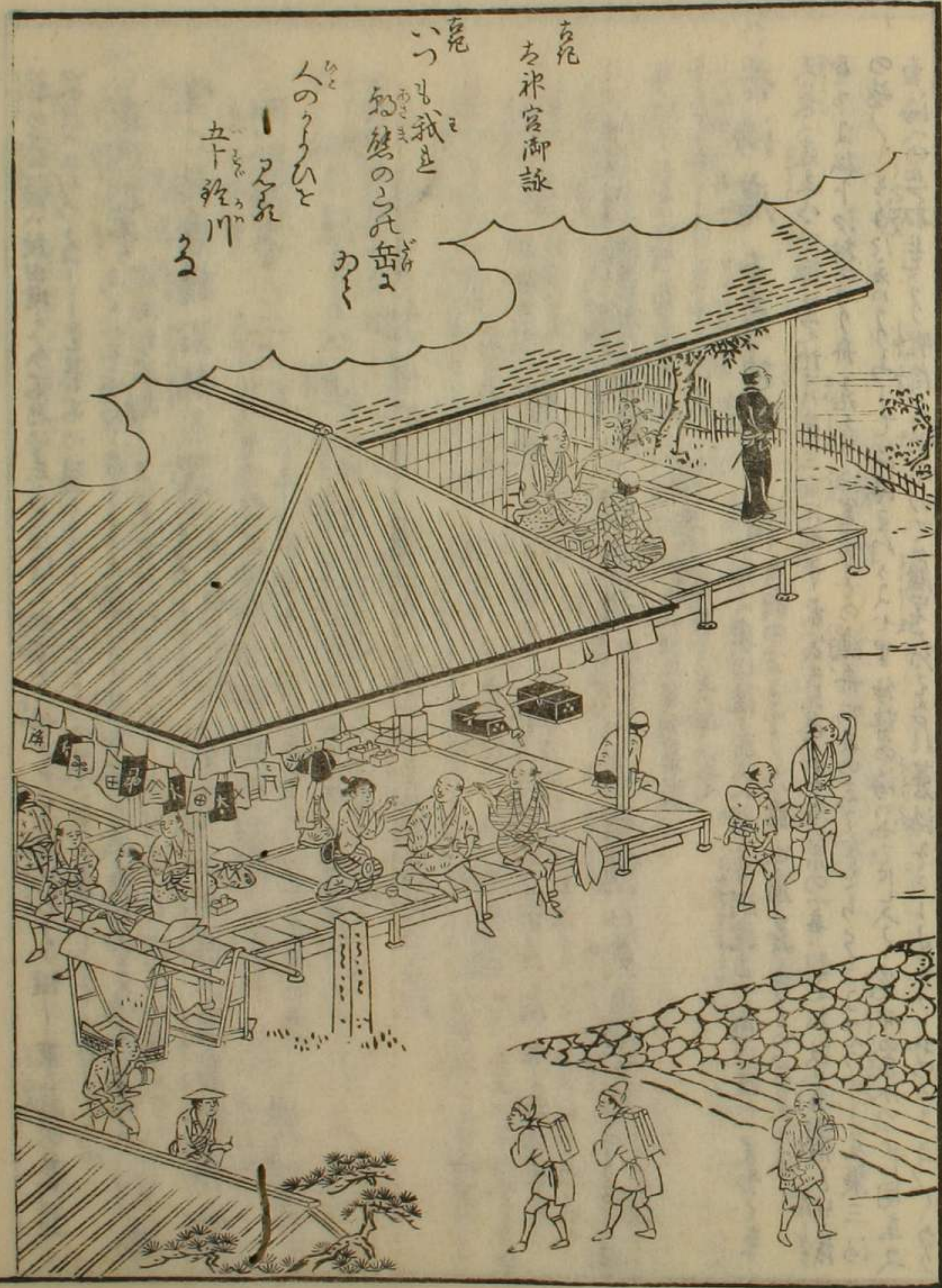
武天皇天平年中 且此不(安)と云ふ
○九馬改義朝の佩刀のこころ 其の基盤を 教まの奇物也 義朝の佩刀は世間茶
屋より 傳来せしと云

所名

加陽門院 越前

楠部
くまのぶ





左記
 右津宮御詠
 一つも我ま
 知徳のこみ岳ま
 人のくうひと
 一えられ
 五下鈴川
 る



朝熊砦
 朝熊砦

蘇の基盤は秋田城を以て其の基盤と畫して其制巧なり但一軍蘇の基盤と
 なるに非ざるなり其基盤の盤方より一をこころの基盤と畫して其制巧なり但一軍蘇の基盤と
 ○求聞持事 求聞持事(一)を以て明皇天皇と云ふ密教の僧安実の遺名所なり其地は
 ○文殊堂 求聞持事(一)を以て明皇天皇と云ふ密教の僧安実の遺名所なり其地は
 ○極樂橋石橋を加ふる 首の末なり ○熊野三社宮 ○子安地藏堂
 ○阿彌陀寺 ○二王門 往在此門は勝峯山の額を解梅隱が書けり
 ○連珠橋 往在此門は勝峯山の額を解梅隱が書けり
 ○石まの池 堅十間より十六間許の池に石を以て築き海石安惠の作
 ○兩室童子宮 池の左より北地 明星水 二間に面す
 ○手向地藏 明星水と吾海院の
 ○經ヶ峯 胡蘇岳の 龍池 六月一日の外人の 明王院 言宗本願寺不動明王檀摩堂あり
 ○三基院 瀋陽曼陀羅堂 隨泉院 九間あり ○与泉院 ○交追地藏 赤きの宝珠
 形ありと云ふ弘明天皇より御衣 觀音院 八間に面す明星水の
 右より五禪堂あり

吾海庵 本尊地藏菩薩 俗に奥の院といふ池之金剛院の奥の院に一里ありと云
 天長に建立して禪堂と池あり三間に面す石を以て築き有勝景の二奇觀之松枝蔭鬱と生茂
 舟下は松下村のつり舟あり遊覧者ありの漁舟ありと云ふなり
 の傍に松の多かりて海海より七里許の海ありは「入るを舟の泉水の」とし奥東より
 南海への舟取是より帆舟あり帆舟ありは「蒼海」とも云ふなり
 又ありの舟は「たれちぬふ」といふなり
 ○藥師堂 吾海庵の 涅槃塚 ○芭蕉公羽の家
 津々こさやかりひもかけと云ふ人像 七世代
 ○稻荷社 石 ○舍利堂 毎多八月廿三日供養あり ○開山堂 石 ○東岳和尚
 の像 毎多八月廿八日開山忌日あり ○七社社 毎多八月廿八日開帳あり智徳の徳の
 の旧地ありと云ふ津宮加加ありて七社あり弘法大師の御より佛堂を修せりといひて今の小智
 徳の池(津宮)より舟ありなり
 此より一里ありと云ふなり
 ▲石より回廊をまわり二王門(ある)又回廊をまわり石の紐右のなるなり
 堅津村(ある)一里あり此石より一の下乘石あり
 ▲智徳の池(ある)一里あり此石より一の下乘石あり
 並本のさくら花右あり 徳系つふ斗あり
 朝熊村 岩より二十間下は茶屋ありけりなりと云ふなり二王門の傍合ふなり上の
 石城山永松庵 朝熊村 此境内は秋田城之女実寺墓あり高乾院殿茶侍
 後空巖本空大居士 万治二年己未 十一月初九日 安部実孝入道と記なり是れ今奥の村

又ありの舟は「たれちぬふ」といふなり
 ○藥師堂 吾海庵の 涅槃塚 ○芭蕉公羽の家
 津々こさやかりひもかけと云ふ人像 七世代
 ○稻荷社 石 ○舍利堂 毎多八月廿三日供養あり ○開山堂 石 ○東岳和尚
 の像 毎多八月廿八日開山忌日あり ○七社社 毎多八月廿八日開帳あり智徳の徳の
 の旧地ありと云ふ津宮加加ありて七社あり弘法大師の御より佛堂を修せりといひて今の小智
 徳の池(津宮)より舟ありなり
 此より一里ありと云ふなり
 ▲石より回廊をまわり二王門(ある)又回廊をまわり石の紐右のなるなり
 堅津村(ある)一里あり此石より一の下乘石あり
 ▲智徳の池(ある)一里あり此石より一の下乘石あり
 並本のさくら花右あり 徳系つふ斗あり
 朝熊村 岩より二十間下は茶屋ありけりなりと云ふなり二王門の傍合ふなり上の
 石城山永松庵 朝熊村 此境内は秋田城之女実寺墓あり高乾院殿茶侍
 後空巖本空大居士 万治二年己未 十一月初九日 安部実孝入道と記なり是れ今奥の村

蘇の基盤は秋田城を以て其の基盤と畫して其制巧なり但一軍蘇の基盤と
 なるに非ざるなり其基盤の盤方より一をこころの基盤と畫して其制巧なり但一軍蘇の基盤と
 ○求聞持事 求聞持事(一)を以て明皇天皇と云ふ密教の僧安実の遺名所なり其地は
 ○文殊堂 求聞持事(一)を以て明皇天皇と云ふ密教の僧安実の遺名所なり其地は
 ○極樂橋石橋を加ふる 首の末なり ○熊野三社宮 ○子安地藏堂
 ○阿彌陀寺 ○二王門 往在此門は勝峯山の額を解梅隱が書けり
 ○連珠橋 往在此門は勝峯山の額を解梅隱が書けり
 ○石まの池 堅十間より十六間許の池に石を以て築き海石安惠の作
 ○兩室童子宮 池の左より北地 明星水 二間に面す
 ○手向地藏 明星水と吾海院の
 ○經ヶ峯 胡蘇岳の 龍池 六月一日の外人の 明王院 言宗本願寺不動明王檀摩堂あり
 ○三基院 瀋陽曼陀羅堂 隨泉院 九間あり ○与泉院 ○交追地藏 赤きの宝珠
 形ありと云ふ弘明天皇より御衣 觀音院 八間に面す明星水の
 右より五禪堂あり

曾聞人說思重、
 吞海庵前望士峯
 四十由旬半空雲
 雲間一朵玉芙蓉
 村庵

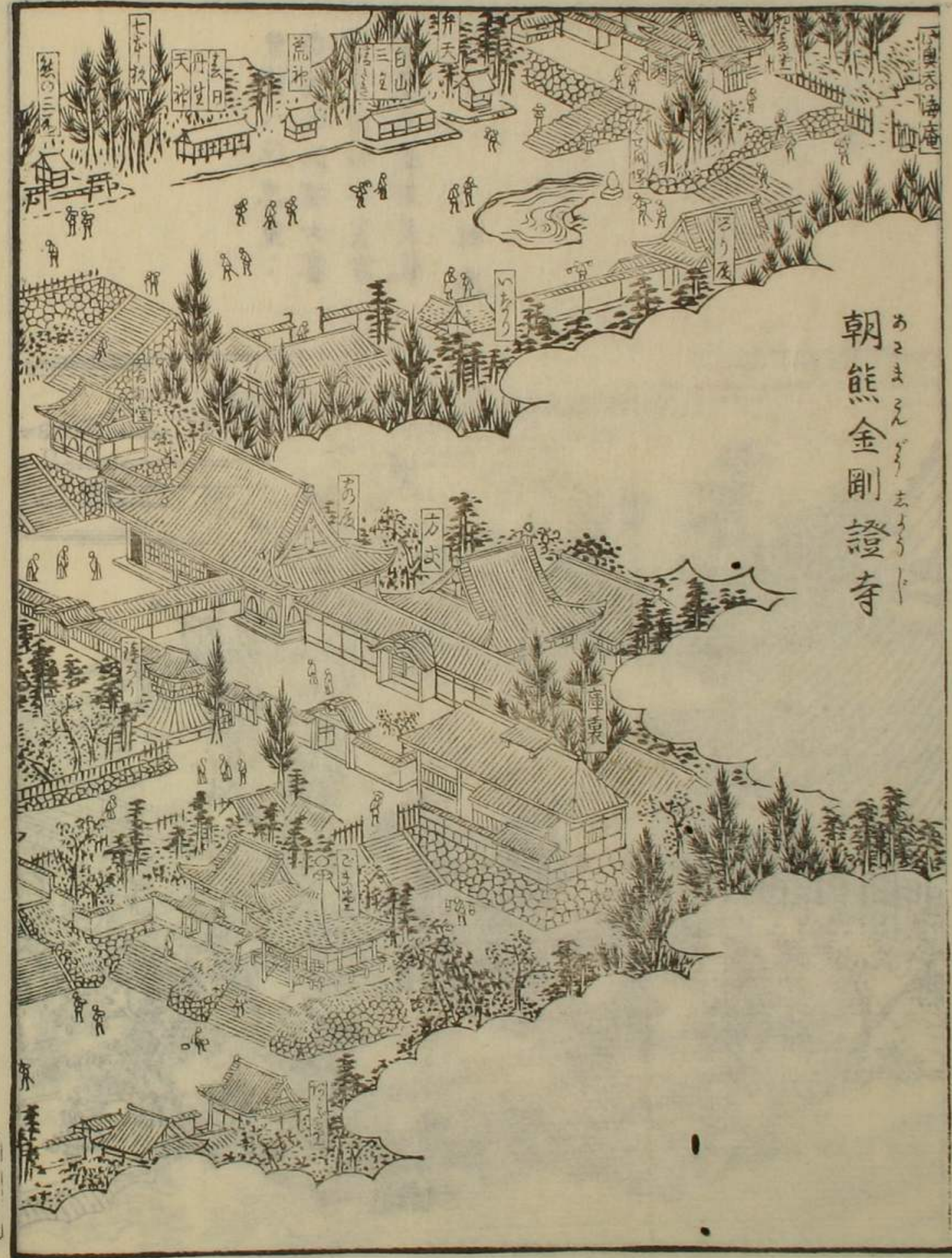


朝熊奥
 吾海庵
 富士見臺



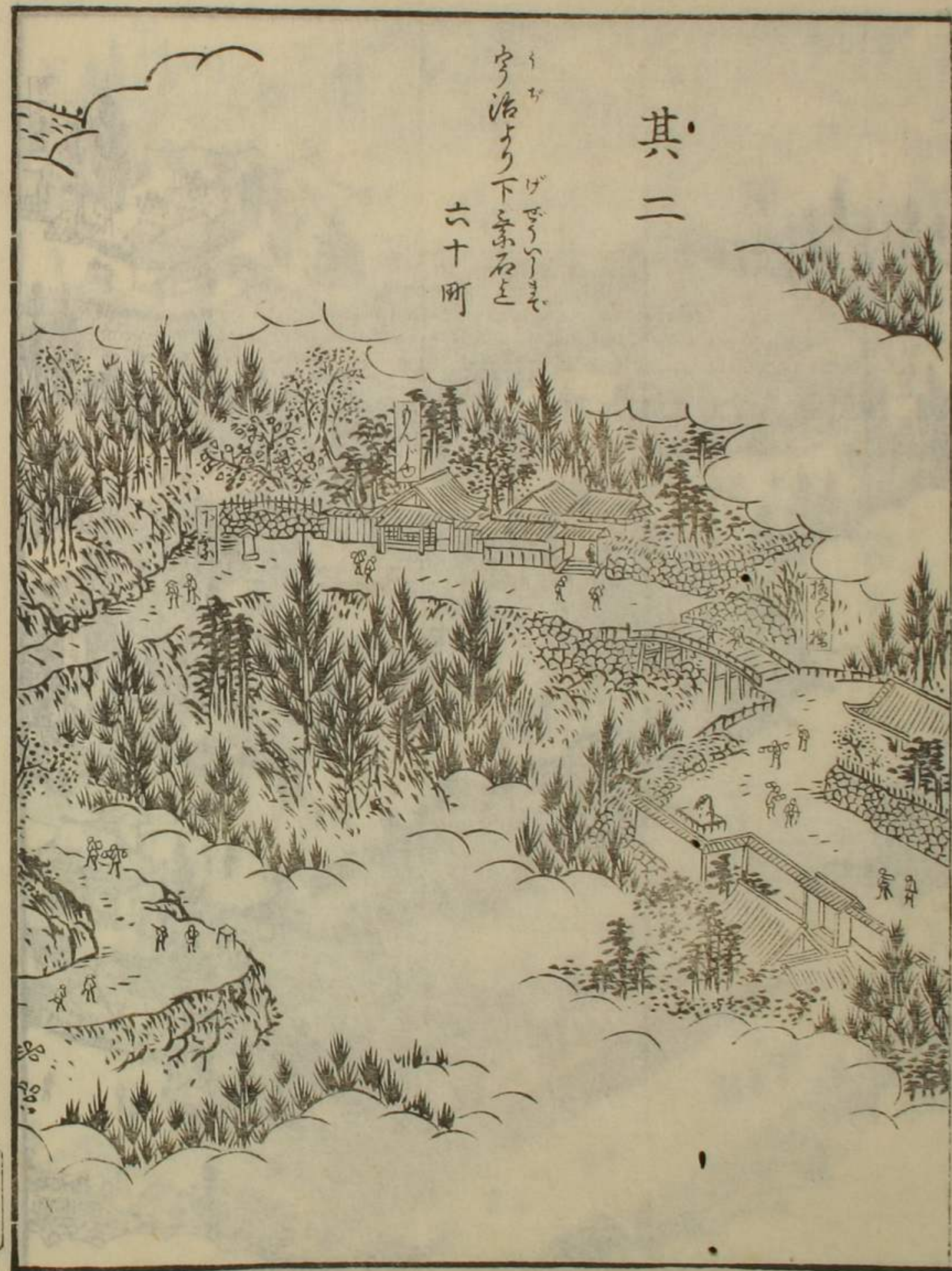
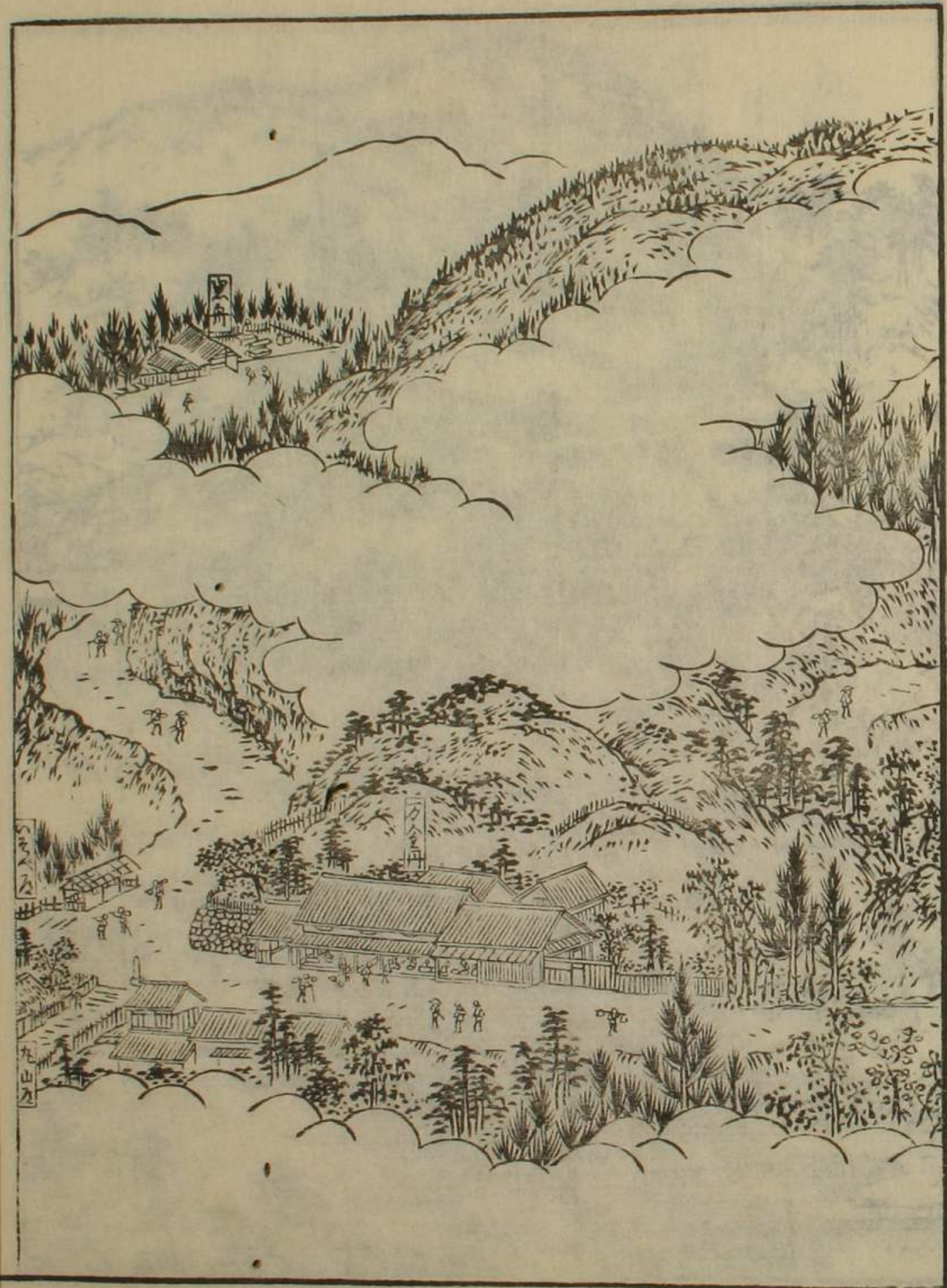


阿闍梨王



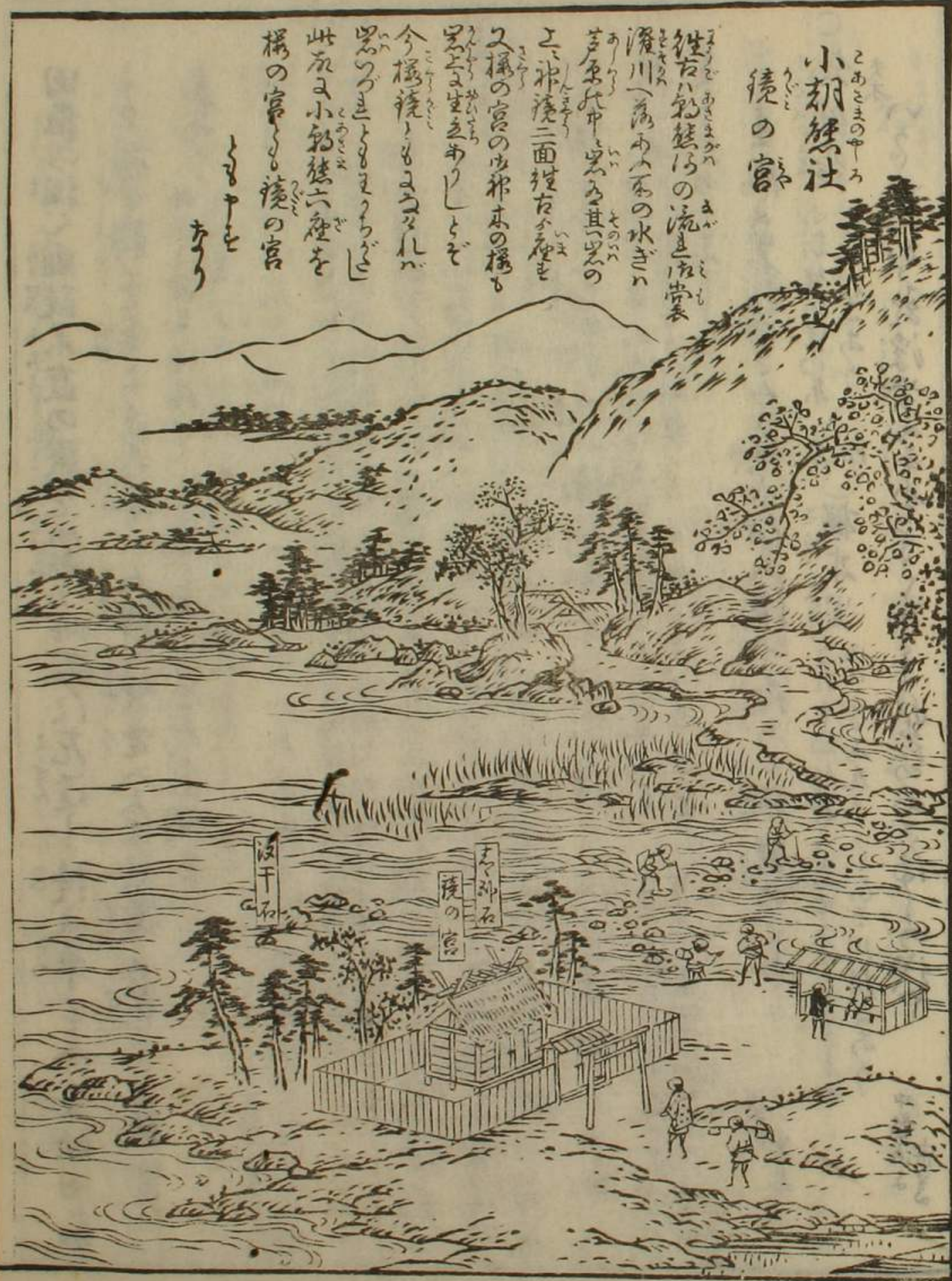
あまのこ
朝熊金剛證寺

女九九



其二

宇治より下糸石迄
六十所



小初然社
凌の宮

此の初然社の流は
 凌川（高市入部の水きり）
 其の源は
 今極後にも
 此の初然社を
 凌の宮とす



所名

田家の祖之國政不直の罪を蒙り此不仁尤迂一終又率を今日又田家より祠事料を考らる其塚ハ五輪之梁入るの強道又達一之能書乃名あり此不仁義多倍倍ひや息女と誓しの法名云々

○同寺又福原右馬助墓あり此碑高サ四尺余横二尺斗苔引く文字云の
 ○一任殿順積道蓮禪定門濃州大垣城主福原右馬助慶長五年十月二日
 ○心誓一諾居士家臣福原喜三郎。又真得如珍居士家臣名字不明碑三有

△船越村西の行より小橋と渡り右の山に二尺の石の碑あり此碑の東に船越村あり山田の船越村を以て一宇田村と名する此の碑中分たの船越村あり

小朝熊社山田の船越村にあり依武帳より祭神天刀自命若虫神船越水神三座也

今ハ櫛王命大歳神大山津見命を加へ六座とて内宮横社二十四座乃其一也
寛文十年大宮司長船越田池をりし再興ありしなり於昔の船越の岳に在りしが門の北に小朝熊の祠と云ふことなるに於て奉清記の文をりて表り又ありと云ふ

妻尾又岩根のさうさび浪のたつる朝越のさや
 祭主 定忠

○船越寺小朝熊の宮の東 名 橋本里
此の朝越村は属せり今もこの朝越村あり
 所 橋本里 田の宮あり今も川村あり

夫木 中朝越寺 宗

所名

船くまや神代より咲花瓜んを心ぞとまらぬさうさや此さ

新所名
 新所名
 新所名

後宮船越より西船越村 石上河原の社と云はれ小朝熊の社ハ神鏡と云ふさうさや也
船越川村尾邊に在り

神鏡のりい治年中の解文あり
社殿并ニ神鏡も船越の村に在り
中宮司長長社殿造立の時中より神宮の御ち
 かりの多く掘出せし内一ツの古鏡を御換せしなり小朝熊其外は踏伏しては
 のどく依り神鏡を人々を驚かして今も船越の村に在り
今も船越と云ふ神鏡と云ふなり 此不神子伏石汝于石等あり

神代より老りをとめて船越やかくし此宮もとまらぬ月朝 隆弁

登川山朝越の北の方之昔船越宮此不あり 長明伴勢記にひる川の横根と云ふ也
俗にヒルカウムヌヒルガウ田といふ

月もあつひる川に雲消くひりもあつぬ塩合のさや 長明

船越社西船越村 不系橋依比女命大歳神 一神内宮の横社十五石の内あり

後合船越より二尺の江河之み十餘川の末に東西の邊より流る波の爰は船合なり俗に
 舟の舟に依り船合と云ふなり 破石右の方より巨石なり

○後合瀆船合といふと云ふ神社の跡より流る波と云ふは船合と云ふなり
名村あり今も江村の方より流る波と云ふは船合と云ふなり

夫木 月もあつひる川に雲消て光りもあつぬ塩合のさや 長明

所名

船くまや神代より咲花瓜んを心ぞとまらぬさうさや此さ



歌石
 俗傳に三津村夜會歌次が
 本歌石のなると傳へし
 されは曲よ著他せし
 歌石も二尺をまね次
 と尺をうり其実尺を
 あつたれども法圓一尺
 の途へ振死してやどて
 蕨生し日向發とあり
 石の綴りて我子幸菊
 丸みぢうあひ且地ぢの
 物さうきさ入つたれ
 の氣久傳勢や日向の
 法ともうね
 歌石や

山田原 谷の西の村三津村のつらみなり

新古今

たのき西の物語は後を流し海はのほろ付とてふはるに川を合ひふらふとてやまき此

○西の法師の旧歌 谷の西の法師の寺あり

谷の法師の寺あり 谷の法師の寺あり

○卑人の墳墓 谷の西の法師の寺あり

三津 谷の西の法師の寺あり

谷の法師の寺あり

谷の法師の寺あり

谷の法師の寺あり

谷の法師の寺あり

谷の法師の寺あり

所名

五峯山密厳寺 三津村 舟つらみ

三津浦 三津の濱

舟つらみ

舟つらみ

濱 三津村の舟つらみ

舟つらみ

舟つらみ

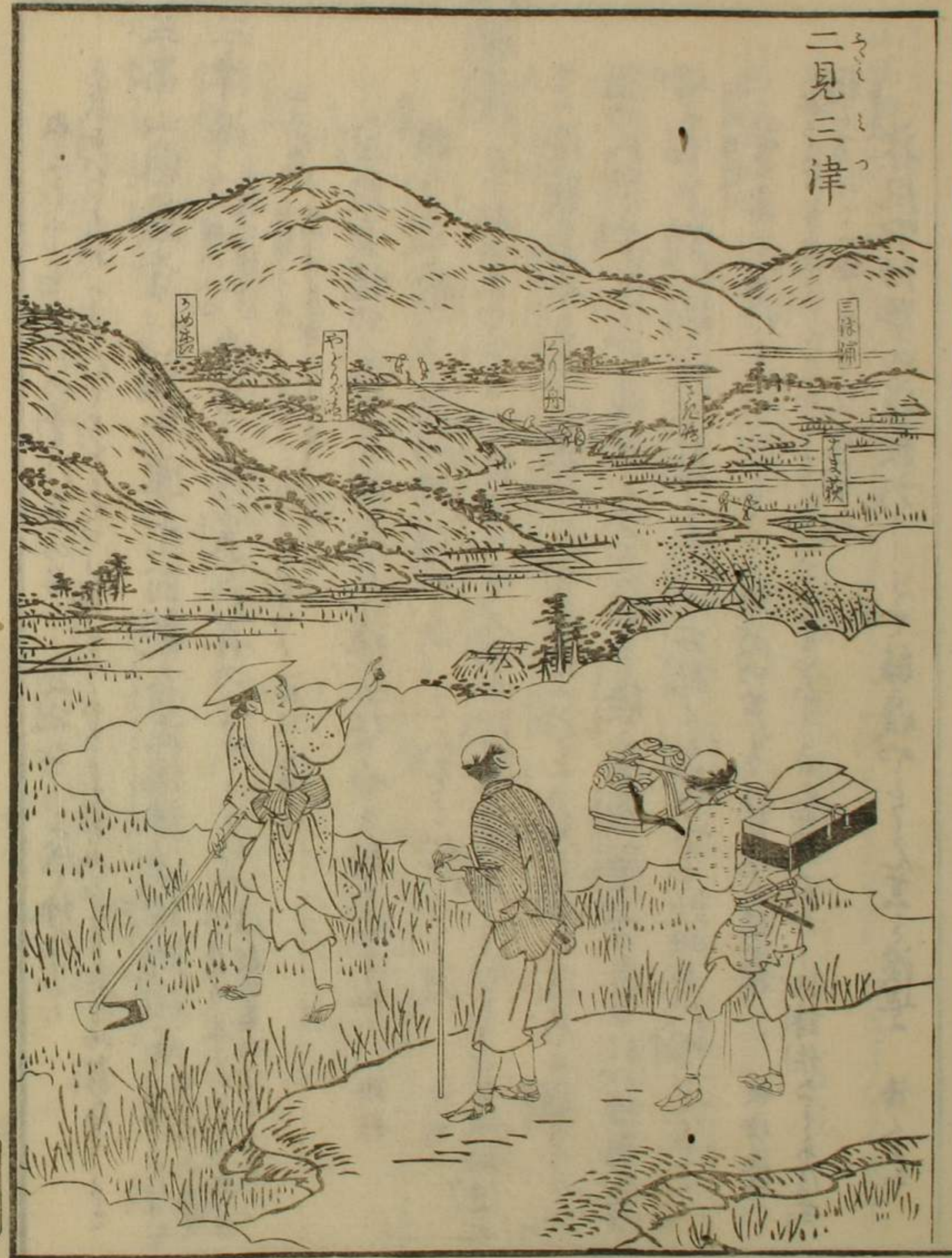
舟つらみ

舟つらみ

舟つらみ

所名

舟つらみ 舟つらみ 舟つらみ



二見三津

五ノ州五



孫三郎義経
 見ゆと後を
 於

これを修めたりと云

○山田より二尺の順路

河崎 山田村龍之山田より二尺五寸と二里 此地毎日魚市あり民屋廣く甚賑

河崎 山田村龍之山田より二尺五寸と二里 此地毎日魚市あり民屋廣く甚賑

河邊里 右名

とむ人やるれいまた集りん河邊の里は龍ぶ雲り那

二軒茶屋 河崎の裡邊より茶屋あり山田吹上より小茶坊を経て雲ありあり

黒瀬 二軒茶屋を 右の森の内は社の此村の氏神の橋諸は公をぬふると云

常柑子 宮の傍 南都興福寺の橋は種より其実ふて小之 徳云昔真福寺の橋

毎多天子(真多)小此実を求めて代りたりたり下されたりと云

と云ころい候勢はる人押とはまてたり候と云花柑子哉

按るは竹分の深りたりたり此分は甚大僧正の所なりて甚大天子の座なり此分は
柑子瓜人の遊りしうりたりは濃なるべし。満見云の母は縣大養食宿祿三子代と云
勢の人たりたりは瓜分宮系柑子のたはぬ橋の史母たり瓜はして満見は瓜分万葉集なり

聖武御製

所名

新名不命

荒木田 尚長

